

A6  
5  
00739048



0005604-000

A 6 - 5

福島県の政治家

太田源次郎・著

帝都日日新聞福島支局

1936

ABC

# 福島縣の政治家

縣會議員  
衆議院議員  
貴族院議員

A6  
5

~~昭11  
A  
738~~

昭

和

拾

貳

年

版



立憲政黨  
民政黨  
調查館

12. 1. 25

帝都日日新聞社

福島支局

739048

昭11  
A  
738

業事宰主市秀依野

筆執日隔士博嶺雪宅三  
市秀依野長社



(錢拾五月ヶ一價定)  
(呈進本見第次込申)

帝都日日新聞は……本紙は僅かに四ページながら、社長は昔と變らぬ有名な快男兒何者も恐れぬ！ 嘘を書かぬ！ 快刀亂麻の特種記事満載、金力で作れぬ新聞！

福島市會根田天神前

帝都日日新聞福島支局

◆實業

之世界

毎月一日發行定價三十錢  
實業之世界社發行  
支社大阪大分市

◆眞宗

の世界

毎月一日發行 定價三十錢  
大日本眞宗宣傳協會發行

◆日刊實業

業通信

定價一ヶ月百圓以内  
日刊實業通信社發行  
支社大阪

◆佛教思想

想

毎月一日發行 定價十錢  
佛教思想普及協會發行

信仰求道の道場  
◆佛教眞宗會館

東京芝區芝公園五號地

◆帝都佛教青年會

青年會

毎月十五日發行 會費十錢  
帝都佛教青年會發行

序

福島縣は東北の關門、而して奥羽の咽喉である。更に其面積、其人口、一切に就て主座の大縣である。されば六縣を統制して常に指導的立場に赴くもの、素より天命で無ければならぬ。故あるかな一昨春以來、之を實現して政府を動かし全土を共鳴せしめて振興の計劃を吾が郷に持ち來せる事——今や次年度より施設の萬般、續々として眼前に展開せんとする。吾等は之が中心となつた前期の本縣選出貴族院議員、衆議院議員、縣會議員の諸君。五拾六氏に滿腔の敬意を表さねばならぬ。然も此機運に乗じて地方百年の大計を樹立せんとするには今後に一段の努力を要する。昨秋及び今春の改選以後に於て當選せる現期の議員諸君に精進を望む所以である。茲に於て諸君の横顔を描出し諸君の實相を語らんとするもの、亦た縣民並に僚友たる五縣民及び之と利害を共通する北海道民の待望に副ふ奉仕ではあるまいか。更に政府と東北問題に留心を置く有志者の好参考ではあるまいか。此趣意で此小冊子を編んだ。昨冬、刊行の分が根本的に書き直され或は増補され改訂された事は申す迄も無い。

# 目次

## 福島縣會議員席順

議長 釘本 衛雄……………(一)	議員 大越 鐵太郎……………(二一)	議員 富田 勘之丞……………(四一)
議員 松田 甲次郎……………(二)	議員 大木 代吉……………(二三)	議員 二瓶 謙二……………(四二)
議員 小松 章……………(三)	議員 蓮沼 龍輔……………(二四)	副議長 小松 茂藤治……………(四三)
議員 唐橋 重政……………(四)	議員 白岩 忠夫……………(二五)	衆議院議員 (順不同)
議員 大竹 作摩……………(五)	議員 大内 一郎……………(二六)	菅野 善右衛門……………(四四)
議員 山田 一郎……………(六)	議員 渡邊 祐之……………(二七)	栗山 博……………(四五)
議員 深谷 新之助……………(七)	議員 鈴木 周次郎……………(二八)	堀切 善兵衛……………(四六)
議員 松永 高之助……………(八)	議員 矢内 清次……………(二九)	助川 啓四郎……………(四七)
議員 三田 暉次……………(九)	議員 片平 萬吉……………(三〇)	林 平馬……………(四八)
議員 馬場 長一郎……………(一〇)	議員 志賀 越……………(三一)	八田 宗吉……………(四九)
議員 山田 六郎……………(一一)	議員 高野 與祖次郎……………(三二)	淡 季松……………(五〇)
議員 太田 秋之助……………(一二)	議員 渡邊 晴松……………(三三)	仲西 三良……………(五一)
議員 菅野 喜三郎……………(一三)	議員 關内 正一郎……………(三四)	比佐 昌平……………(五二)
議員 宗像 孝三……………(一四)	議員 野崎 滿藏……………(三五)	氏家 清……………(五三)
議員 小澤 五郎……………(一五)	議員 野崎 光衛……………(三六)	鈴木 辰三郎……………(五四)
議員 菊池 善吾……………(一六)	議員 岩崎 光衛……………(三七)	貴族院議員
議員 渡邊 信任……………(一七)	議員 小野 晋平……………(三八)	金成 通……………(五五)
議員 加藤 宗平……………(一八)	議員 川田 正智……………(三九)	油井 徳藏……………(五六)
議員 佐藤 市太郎……………(一九)	議員 物江 浩……………(四〇)	

## 釘本 衛雄君



禮島縣の「今太閤」は議長釘本君であらう。「祖父が奉公して居た須賀川町の釘屋商店を記念して明治維新以來、釘本と云ふ姓を作つた」と云ふ程の一農家、双葉郡の寒村幾世橋に生れて小學校以外に正規の學歷は無い。電信修技生として村の郵便局でカチ／＼遣つて居た(妓の局長の息子が今日の農銀重役馬場房時君で釘本君報恩の美學だ)。志した早大の苦學も途中で歸宅して居たのを同村出身の福島新聞理事天野蒼郊翁に見出されて相場記者(今の經濟部擔當)に入

り研鑽して主筆高木鏡堂の下で説委員に進んだ。筆名は「夏竹」で俳句もやつた。雑誌「東北」の経営や「史料叢書」の刊行など商機に敏なる所も現したが鹿野直司を擔いだ總選舉に失敗して一時は伊達郡史編輯員となり桑折町に都落までした。鏡堂逝くや僚友の支持で返り咲いて主筆となり理事となつて大正十二年に及ぶ。此間の記者生活十五年である。村を出た時に妻子あり卅歳に近い年輩なので苦勞も人一倍して居る上に大正六年にはチブスの奇禍で妻子三人が全滅したと云ふ無上の悲惨事にも逢つた。が後を承た節子夫人に一男二女あり。今は珍しい至幸至福の家庭である。本縣政黨史が始まつて

より君の如く永年勤続の幹事長も無いし君の如き帝王的な地歩も無い。代議士ならぬ「大議士」である。唯惜しむ選舉運が悪くて縣議戦に出馬七回で當選三回、代議士戦に出馬二回で零敗。と云ふ成績だ。之は當人が悪いので無くて選舉區が悪い故で詮も無い議員としては全院の決議で知事の表彰さへ受た名議長で東北振興運動のリーダーだった。素より人物は敦厚で穩和中正。然も秋田縣に鑛山主となる事業熱もあつて金の作り方はウマい。趣味は盆栽に圍碁將棋。福陽文壇稀有の文章家だけに有名な讀書人。「知事公選」の世の中になれば初代の民選知事は此人などであらう。

所屬	民政黨(再)
住所	福島市舟場町
職業	著述業
年齢	五十七歳

### 松田 甲次郎君

松田君といへば「上保原の村長さんか」と答へる程に君の村長振は板についたものである。上保原を今日の模範村に築き上げる迄には君の功勞を最も多しとする事程左様に村長こそは君にうつてつけの仕事であつた。縣會議員としては前回の政戦にこそ不幸落選の憂目を見たれ、その前既に二期に亘つて議席を有して居り今回は返り咲きの三期目といふ譯である。福島貯蓄銀行の重役などもして人格は高潔眞面目で立派な人であるけれども味と潤ひが足りぬ點はない。華々しかるべき政治家といつた先入觀念からすれば凡そ縁の遠い存在で之が君の甚だ損な處であつて人好きせずパツとしな



所 屬 民政黨(元)  
住 所 伊達郡上保原村  
職 業 農 業  
年 齡 六十二歳

今は後妻だ。憲兵曹長だけに諸事キチンとして居るらしい。實家は富成村の豪農西戸家である。

御婿サンであるが夫人が逝去して

ねく行はれ小前の百姓達からはエライ人だと思はれる所以でもあらう。酔へば必ず出るのは劍舞で蟹聲物凄く且つ吟じ且つ舞ふ壯觀さだけ九ミリ半にでも撮めて置けば後世縣政史上の一紀念物にもならうといふのが唯一の隠し藝である松田君は本年六十四歳、幸運に恵まれた晩年を如何に意義づけて行かうとするか。われ等は君の今後を期待するものである。同家には御婿サンであるが夫人が逝去して

### 小松 章君

小松君は養子である。明治二十六年三月一日、茨城縣多賀郡に生れ、勿來町の小松家に入った人である。水戸商業を卒へて東亞同文書院に支那語を學んだ。茨城縣人の誰れもがさうであるやうに小松君も少なからず水戸學の影響を受けて成人し文武何れかで世に出やうとした様子が見えてゐる。小松君が陸軍歩兵少尉で、時には凛々しい軍服姿で町を歩いて居るのを見掛けることがあるが勿來町の在郷軍人分會長であるから當然のことであるかも知れない町會議員た



町會議員た

ること三期。現に消防組頭で一度半鐘が鳴り響くと軍隊仕込みの早仕度で瞬く間に現場に駆つけるといつた敏捷さである。この他信用組合理事、養鶏組合長、勿來製氷専務、民政黨石城郡部會評議員など、數へ切れぬ澤山の肩書を持つた人である。昨秋の選舉では民政派に人が少なく種々な議論があつた中に釘本幹事長は早くから小松君に白羽の矢を立て、時期の到るのを待つてゐたのである。機が熟して立候補した時、石城郡南部には赤津庄兵衛君が政敵として起つた。赤津君は然も同じ勿來町の町長で経歴の多い人だ。小松君は此強敵を向ふに廻はして闘ひ抜て遂に勝つたのである。赤津君にして

所 屬 民政黨(新)  
住 所 石城郡勿來町  
職 業 農 業  
年 齡 四十四歳

見れば不覺の敗戦とあるが政戦の首途に強豪赤津君を屠つた小松君が縣政壇上で如何に獅子吼し、如何に縣民のために公僕たる義務を果すか、我等は靜かに見守らう。新人に榮あれ光あれ。經濟の解る政黨人は尊重されてよろしい。今後の新社會でないか。

# 唐橋重政君

在學中に五反歩百姓論で有名だった本縣蠶業學校出身の秀才だ。少壯政治に志し縣會議員たらんとして落選二回の苦杯を嘗め其後當選今回で三回目、今や押しも押されぬ政友會の前途有望の少壯政治家である。當年正に四十三歳漸く油の乗った働き盛りである。學生時代からの雄辯家で文學的情操に富んだ熱血兒でもあつた。君が文學青年時代の作に

秋雨や桂太郎は死んでけり



と聊か綿入りの觀はあるが彼の古き述懐である。俳號は藻人と云ふ

げな。嚴父左源次翁は多年縣會議員の職にあり。衆望を負ふて代議士となり地方自治を初め國政の上に参加し功勞尠からざりし名士である。君は容姿端正、貴公子然たる風采が四十三頭顱中にあつて嶄然光つて居るのも名門の出たるを物語るものである。修養、練磨怠りなくんば將來代議士として中央乗り出す日もあらうか。蠶業學校出身であるだけに蠶糸業に對する識見と農村問題に對する抱負とは縣議中に於ても屈指と稱せられ政友會に在つては無くてはならぬ闘將である。一時政界を斷念して事業界に身を立てやうとした事もある。俳號はつたが利慾一點張りの業界に没頭すべく君は純潔であり不適任でも

あつた。しかし會津地方に於ける養蠶、製絲等の業界に寄與貢獻した功績は甚大なものがある。先頃は福島新聞の經營に参加して居たが好漢惜むらくは少々氣力が乏しいやうで荒木君に渡して仕舞つた秋が其荒木君も一ヶ月で投て今は釘本議長に渡して終つた。二期當選者であり乍ら新兵に交つてコツ／＼と院内幹事を勤めて倦まぬ所に長所もあり短所もありと云ふ可きであらう。

所屬 政友會(再)  
住所 耶麻郡朝倉村  
職業 農業  
年齢 四十三歳

# 大竹作摩君

縣政壇上人ある如し。また人なき如し。下らぬ質問や希望演説に速記者を苦しめる議員もある中で一期四年間を沈黙石の如く一回も發言せずを過ぎた大竹作摩君は昨冬の選挙に最高點で當選して居る彼の親友は「大竹作摩は男で御座る。縣會四十三頭顱中、幾人もない眞の男は彼である」と云ふ。然らば抑々何故に彼は男の中の男なのであらうか? 弱冠にして北山村消防組頭となり村會議員に選まると事二期。衆望を集めて縣會議員たる前回は議場で土肥土木課長の胸倉を掴んで大喝した意氣を示した。一方には民政黨耶麻部會の顧問として隠然たる勢力を擁す一個のスフインクスである。彼は



曰ふ「猿袴を穿いて財産を失くしたのは俺ばかりだよ」と。少壯政界に志して地方民衆の爲めに私財を投じて盡瘁する事多年。而も清

廉で無慾。政黨人の多くが名利と榮達に戀々として暗中飛躍を敢てする間に巍然として巨木の如く利權と誘惑を足下に見下しつゝぐん／＼と自己の枝葉を延ばして來た彼こそ眞個風雪に鍛え上げられた男の中の男である。彼には學問は無い。その代りに肚が出来て居る邪惡を排撃し正義の爲めに敢然として奮ひ起つ意志の力は何人にも

譲らざる闘士である。その一面には純情掬すべき人間味が燃て居る他を蹴倒して自分獨りが立つといふやうな現代氣質は微塵もない。彼が今日の信望を一身に集めて確乎不拔の地盤を築き上たのも此仁俠と無私無慾の賜であらう。曾て林平馬君を助け今は仇敵の如くである。夫は林君が士道を解せぬ故だと云ふ。機略縱横の士だけに深い思案があるのであらう。

所屋 民政黨(再)  
住所 耶麻郡北山村  
職業 農業  
年齢 四十二歳

# 山田一郎君

新に都市計劃委員ともなつた山田君は明治三十四年五月十五日生れ。今年三十六歳で田村郡の渡邊鐵太郎君の三十五歳に次での年少者である。中央大學法律科を卒業した人で辯護士試験に及第したのが大正十一年九月山田君がまだ二十二歳の時だつたのだから頭腦明晰であることは今更ら喋々を要しない。郡山の市會議員たること既に二期で市會で最年少の議員として異彩を放つてゐる。うるさい郡



山市會に在つては反市長派たる同志會の中堅人物として活躍してゐる。昨秋の選舉では、郡山市では原君と政友の須賀君が當選し政民一名づゝとなるだらうと豫想されてゐたのに、百六十四票押へて須賀君を次點にした。福内君と入れ替はつた役者として別に苦情の

ない人である。此の人が將來に縣政壇上ごんな大芝居を見せるか。尙春秋に富む青年山田君の動向こそは注目に値するだらう。原君の失脚後君の責任が一段と加重された。本年の縣會に於ける君の縣廳改築反對論の如きは山田君ならではの感を郡山市民に與へたでろう

所屬	民政黨(新)
住所	郡山市麓山町
職業	辯護士
年齢	三十六歳

# 深谷新之助君

當選三回。出づれば必ず勝つ縣會の常勝將軍である。君の徳望の致す所でもあるがまた地の利も得て居る。由來田村と石川は故磐洲翁以來の金城湯池であり其上に石川郡は定員一名であるから劣勢の政友會は永久に勝味がない。君は九年前故小針啓太郎氏の後を繼いで縣會議員となり一回も落選せず今日に及んで居る。今は石川民政部會長として縣會民政黨の重鎮であり縣支部の幹部であり石川町長



である。温乎たる風采相當に押も強く仕事もする。多年の修練で地

方政治家として良く出来て居る。篤厚で斗酒猶ほ辭せざるの概あり杯を擧げて滔々辯じ去り辯じ來る所將來君が磐洲翁の遺鉢を繼いで代議士として出馬せんと待機して居るのも亦た故ありといふ可きであるが民權自由の郷人に似ず縣會に於ける君の質問演説は多くは當局の擁護論なるも面白い。現在石川郡農會會長、郡聯合青年團長、石川町長や其他多數の團休、事業等に執筆し地方民より敬慕されて居る。そして五月蠅き政治問題に奔走して寧日なき間にも猶ほ和歌をものし文學を語るの餘裕と風流心を持つて居るさうだ。燠し銀の如き底光りのする人格と燠み締めれば嚙み締める程流れ出る人間味は

君の生れついた良き素質の上に多年の修養に依つて完成されたものであらう。後妻ハナエ子夫人にも昨年子寶が出来た。夫人が現職の小學校教員なのも政治家としては珍型であるまいが同君らしくて面白い。今期縣會開會式に休んだので何かと思つたら石川町の納稅督勵で激忙中だつたとやら。町長稼業に斯う熱心では次回こそ新人を縣會に推す事にならうか。

所屬	民政黨(再)
住所	石川町新町
職業	電機器具販賣業
年齢	五十八歳

# 松水 高之助君



松永高之助君は田村郡瀧根村長として僅かに落選の餘憤を慰めてゐる

たものだが、今春の總選舉に於て同郡の縣會議員湊季松君が衆議院議員に當選したので順位當選と云ふ幸運の籤をひいて再び縣政壇上の人となつた、前回も同君は「田村郡」無競争と云ふ幸運を拾つただけに縣會隨一の幸運者と云はれてゐる。河野磐洲翁の遺風尙存する金城湯地の同郡から政友會を名乗つて出てゐるのであるからその選舉區も容易ならぬものがある。それだけに今度の當選は同君に取

つては意義あるものと云はねばなるまい。君は齡既に耳順を越えてゐるが、元氣は壯者を凌いでゐる。資性寛厚にして内に堅剛の志を包んで健實一點張りの人だ。縣南に於ける木炭王と稱せられてゐる大木炭商で、相馬郡原ノ町から身を起して現在の處に活動すること四十年。斯界の成功者とうたはれた、立志傳中の人と専ら噂されてゐる。この商才と商魂を政治に振り向けて一歩々々石橋を叩いて渡る式に地方のために働いてゐる縣政界に於ても既に二年生となつては場馴れもしてゐるので老巧の辯、謙讓の態度で政友派に重きをなしてゐる、現在同派の政務調査會副會長をしてゐる處を見ても同君の手腕を察知し得るが、平素は至つて好々爺振りを見せてゐるの

で一寸此の人の全部を覗くことに苦しみわけた、近頃の話だが、居村の神俣驛に近い處の石灰山の豊富なのに目をつけて、これを東北振興株式會社の肥料工場設置の運動と云ふ大仕事を單身やつてゐることだ、福島は勿論中央にも夫々の手續きを踏んで懸命の活動を續けてゐるので、今日では大に有望視せられて來てゐることだ。これを以てもタダの鼠でないことがわかれると云ふものだ。自分の事業は賢息が引受けてゐるし、それから、議會議員として村長としてこれから餘生を地方のために捧げるのだとは君の抱負なさうだから、所謂治國平天下の道を知る人と云つてよからう。

所屬 政友會  
住所 田村郡瀧根村  
職業 木炭商  
年 齡 六十七歳

# 三田 暉 次君



阿部落屈指の名門で舊領域たる棚倉町蓮家寺と白河町龍藏寺に今も父祖の頌徳碑が儼存する。石川中學を卒業後、明治大學と福師第二部を半途で操觚界に投じた。爾來、福島新聞編輯局長、福島日々新聞主幹、萬朝報東北支局長、縣新聞雜誌記者協會長等を歴任するの間、磐城鐵道や久慈川電氣の重役其他、實業界にも關係して來た

一方に政界で縣會議員、參事會員、縣教育會代議員、地方森林會議員、さては民政黨本部代議員、支部常任幹事、東白川郡部會長等々を勤めたのも久しい。けれど彼をして大衆的聲名！「三田白夜」を知らぬ縣民な

きに至らしめた所以は此經歷より以上、寧ろ彼が半生の風雲史、地方に類の無い其の活歴史にあらう。茲に數例を引くも米騒動の巨魁、移廳反對縣民大會の座長、家賃値下市民大會の主盟、縣青年議會の議長、私設の荒消防魁組統領、尼港殉難記念銅像計劃の非違阻止者と擧て數ふる遑なし。此挺身が彼を名物男に作り上げ凄味ある顔役的存在とした。同時に薔の如き膽略と焔の如き辯才が嫉まれたり寛濶な親分肌や豪家の坊ちゃん育ちに起因する芝居氣が誤解されたりして屢々あられも無い問題の中心人物視され怪傑視されて來た。が實際は進退高朗で物事に恬淡、柔道何段らしからぬ多情多恨な涙脆い性格だ。評判な才色綾子夫人に一男二女あり。家庭の良き父は知己にも善き友で縣下廿市郡の官公人に彼を倚頼する者尠く無い。趣

味は演劇に硬軟兩様の讀書だ。されば多摩同人たる短歌人で並木時に俳句よし川柳よし雜俳よし漢詩まで嗜なむ。之が財界動亂期に血の雨降らして全國的に有名な農銀總會や福電總會など記録的事件をシンとさせる「勇」の反面に於て縣教育會館建設だの新奥羽文化に偉蹟あつた東北文藝協會組織などを立案した「智」の反面だらう。その彼が近年は自重して風流三昧に踏晦中な處に興味が繋られる。体重廿有七貫身長五尺七寸の伏獅が蹶起するのは次の代議士戦か否か。縣南は將器乏し。國民同志會總裁安達謙藏氏など早く「東北に珍しい若いモンで第二の河野(廣中)だよ」と折紙をつけて絶讃して居る然り。金さへ有れば大臣にも成れる人物と地盤だから待望される。

所屬 民政黨(再)  
選舉區 東白川郡  
住所 福島市上町  
年 齡 四十五歳



# 馬場 長一郎君

入り交り立ち交る政敵を一蹴し 恵まれず。千古斧鉞を入れぬ大森 杜に圍繞されてゐながらこれを開 發することが出来ず郡民の悩みと なつてゐたのである。馬場君は深 く是を憂へて道路改修に意を注い で自動車交通の途を開いた。土木 事業は派手ではないが地方開發の 根源をなすもので此點同君の功績 は大きい。其ために森林開發の便 を得たのは勿論、鐵道枕木其他特 殊の木材が必要に應じて搬出され 交通文化が齎らす恩恵は年々増加 しつゝある。田島公民學校の開設 もまた同君の努力に負ふところが 多い。馬場君は明治十一年の歳末 二十九日生れで現に出生地伊南組 合村々長であるが、君が陸軍主計 軍曹であることを知つてゐる人は



君のために 應援演説を するのは學 友であるといへ美し い友情で思

へば馬場君も良友を得たものであ る。君は不言實行の士で過去二期 の縣會議員在職中に爲した業績は 甚だ多い。山岳重疊たる南會津に は漸く田島までの鐵道が開通した とはいへ數年前までは道路交通に

尠ない。南會津郡產馬組合長たる こと三期。南會製糸信用販賣組合 長である。馬場君が此期の縣會に 爲さんとするものは何か。郡民の 期待するところであらう。趣味は 第一が酒、第二も酒だ。何でも知 つて居る鍊達之士で斯う落着いた人 は珍しい。議場では悠々たる居眠 りの名人だ。腹の据つた證據であ る。

所 屬	民政黨(再)
住 所	南會津郡伊南村
職 業	農 業
年 齡	五十九歳

# 山 田 六 郎 君



民政黨支部の政務調査會長で次 回の縣會議長候補たる山田君は明 治六年三月十五日双葉郡上岡村に 生れた。年輩も年輩だが人格識見 の卓越して居る上、大正年十二年 に縣會議員となつて以來の議員だ から縣會に於ける民政黨の長老扱 ひを受けてゐる。縣立福島蠶業學校 の別科を卒業してから幾年か地方 蠶業界のために努力した。そして 製糸界に志を立て富岡製糸場を経 營した、當時君は熱心な製糸業者 以後半生を政治家として送る運命 になるとは自分も思はなかつたで あらう。それほど若き事業家とし ての彼は華やかな活動ぶりを見せ てゐた。だが時勢が悪かつた。財 界が悪かつた。其輸出羽二重と製

糸事業は希望に満ちた山田君を決 して満足せしめなかつたばかりか 却つて失望 せしめるも のがあつた 政治に轉換 したのは其 後で大正十 年に郷里上岡村の村會議員に選ば れたのが其のスタートである。け れども君が蠶糸業界へ残した功績 は大きい今日なほ斯界の先輩と仰 がれてゐるのを見ても判るだらう 昭和四年に上岡村長に就任して以 來村政に盡力する激務の間には附 近の町村に多忙な時間を割いて地 方のために活動してゐる。君が縣 會に在つての特異な點は統計を基

礎とした調査である。縣會に於け る好漢山田老の辯説の強味は其處 にある。百の理論よりも一つの事 實で根強く論陣を張ることは聞く 人を感動せしめる、唯近頃惜しむ らくは耳が少し遠いが精力の絶倫 は四十三同僚の中で尠くも五指の 外に出まい。今夏の災難は同情さ れた。災が轉じて福となる日が待 たれるのか、電話杯では頓珍漢の 返事をして側近の人々を思はず微 苦笑さる事がある。そして曰く「 何もこの電話は具合が悪いぞ」 だ。

所 屬	民政黨(再)
住 所	双葉郡上岡村
職 業	農 業
年 齡	六十四歳

# 太田 秋之助君

政友會本縣支部幹事長たる太田君は相馬郡石神村信田澤出身、明治十三年十一月廿九日生れたから今年五十七歳だ。學歷は高等小學校を卒へたゞけであるが、多年土木請負業者として具さに世の表裏を觀てきてゐるので肚は出來てゐる。選ばれて村會議員となり、引續いて消防組頭、信用組合理事、縣耕地協會評議員、福島電燈株式會社重役などを歴任した外、幾多の名譽職や顧問などもしてゐる。



故に郷黨の  
信望も高い  
もなく寡言  
實行の人で  
ある事だ。

同君が心血を注いだ各事業の中最も目覺ましいモノは有名な干拓事業だ。相馬郡で干拓事業といへば太田君を思ひ出すほど深い關係の功勞者であることは君の銅像が建立されるに至つた一例がよく物語

つてゐる。干拓事業を起す隠れたる功勞者は他にもあつた相違ないが是れを完成させたものは實に太田君である。同君のいゝところは世の請負業者が常に大風呂敷を擴げて駄法螺を吹くのに全くさういふ點は微塵もなく寡言實行の人である事だ。故に郷黨の信望も高い

よく談ずる者には贅言が多いが太田君に其弊がないのは思想的に統一してから言葉にするからである幹事長就任以來、私費を投じて支部を修繕したり什器を買つたりして盡して居る。それで赤切符で歩いて居るのだから頭が下がる。

所屬 政友會(再)  
住 所 相馬郡石神村  
職 業 農業  
年 齡 五十七歳

# 菅野 喜三郎君

四季を通じて殆どモーニングコート姿で一貫する菅野君は生抜き一ト姿で、親譲りの選挙上手だ。小學校も満足に出ない身で村の區長や議員をやつてゐた時分には自分でも今日ある事を夢想だもした事はなからう最初から民政黨の一點張り當時伊達の大御所であつた武田翁の傘下で具さに選挙界の駆引を體得し大衆心理把握の術を自得したのである。そしてその結果が郡會議員から縣會議員へと君を



何時の間にかトン、\ 拍子に祭り上げて了つた次第だ。自村では村

長も勤める。伊達郡養蠶同業組合長も勤めて居るのだから魂消るではないか。實際選挙に於ける君の辣腕は凄いもので「菅喜は病院を背景にして、年中運動を行つてゐる」と悪口を叩く者もある位で虚々實々、水も洩らさぬ周到な作戦と之を實行するに機敏で大膽である事は何といつても類と眞似手のないもので大衆を啞ツと言はせる處のものである。お國言葉丸出しのズー、辯演説は是れ亦、縣會座の一名物となつてゐる。そして世間からは惡黨らしく云はれ乍らイザとなると引掛るやうな事をし居ない何處まで伶俐か見當がつかぬ位で放膽な割合に細心な注意を忘れてゐない處そこに菅喜式

の妙味と眞骨頂があるのである。惡黨らしくも思はれる一面は愛すべき好々爺で毫も憎むべき處のない男である。さればこそ老いたりど雖も女にモテる事は非常なもので、今の第二夫人たるおヨシさんの如きも、曾ては血道を擧げて選挙の度に酷い工面迄して軍費を貢いた仲である。誰しも兩人の圓滿振に當てられるのに不思議はない世話好きで良く子分共の世話もする。東館の繁昌は其餘慶かも知れぬ。春競馬で二百何十圓か遺失したのだから懷中も勿論暖かいのであらう。

所屬 民政黨(再)  
住 所 伊達郡小坂村  
職 業 農業  
年 齡 六十四歳

### 宗 像 孝 三 君



何の會合ト居した。久しい消防組頭で此方にも一言居面では専門家な外に町會議員も五士と云ふ男期、縣米穀組合や縣蠶糸商組合のが一二名は副會長まで指を折ると公職名譽職ある。効果がある。ソが三十三の肩書を作ると云ふ。ソの有無に關レ程の有力者であり乍ら民政黨の地方同志からは總スカンで何遍も縣議候補を志願して一度も公認されずに来た。昨秋は善戦して當選したのだから當分の間でも意地になり「中立を標榜するか」と見られて居たが案外なモノで郡部會から除名された儘でサツサと縣支部ヘナキを入れて兎も角も民政黨二十九議員の一人と登録して貰つた此邊は商人らしい進退なのかも知れぬ。他人に御馳走をすると云ふ事はしないやうだが自分だけの「

遊び」は一通り遣るらしく福島市で第二號が藝者置屋を營んで居た事さへある。中野寅吉君を民政派が放逐の時に生意氣を云つたとかで院外團に散々殿られた事もある(院外團に殿られた經歷ある議員は此人だけだ——)が此時なども宴席で隣り合せた爲め聲寅擁護の一言が禍したので相仲々の男氣も有るらしい。貯蓄した金をモウ少し手離す一方に今野、猪狩、島など地元の元老達と折合をつけぬ事には前途が随分心配だらう。此程の中村町長選挙に同點年少の敗れは惜しかった。

所 屬	民政黨(新)
住 所	相馬郡中村町
職 業	米穀蠶糸金物商
年 齡	五十三歳

### 小 澤 五 郎 君



中立から立つて政友會の長老の金子卯吉翁を壓倒した初陣の大勝利者小澤五郎君は高田町の素封家で現在は町長の職に在る。過去に於て郡會議員を二期、郡農會長を一期、町會議員は四期も勤続して居る。選挙のスローガンは教育、産業、土木、衛生等の施設に就て縣費の均霑を實現し殊に糺子扱にされて居る大沼郡の爲めに粉砕身せんと強くいふが如く飽迄も選挙區地方の爲めの縣會議員を望んだ。多年、自治行政上の經驗から体得して抱負經驗に依つて今後の活躍は大に期待して可なりと云ふべきである。昨秋の選挙に於て断然中立を標榜して立つたのは實に君唯一人で政黨政派の力に頼らず

自己の信望と實力に依つて當選した君の勢力は誠に偉大なものでないか。素は民政黨に屬して居つたが何等か感ずる所があつて昨春脱黨して了つたので民政黨では何とか復黨せしめて自黨から立候補せしめやうと奔走したのであつたが斷乎として所信を狂げず、獨立獨行、遂に當選の榮冠を獲得したのであつた。そして當選後に民政黨へ復歸した。地方問題に對しては相當に自信もあり之れが實現に對しては實力も強固なる意志も持つて居るらしいから縣議としての活

所 屬	民政黨(新)
住 所	大沼郡高田町
職 業	無 職
年 齡	六十二歳

動には大に期待してい、と思はれる。貴公子然たる風采で四十台とも間違はれる。其處に君の活動力が潜んで居るモノと思ふ。

# 菊池善吾君

政友會の長老たるブルの根本清左衛門翁を蹴落して千三百餘票の多數を凌駕した事は君を知る者も知らざる者も等しく驚心駭目した處であらう。併し之はプロの菊池君が多年刻苦し堅忍して來た報酬であると申してよい。職業は印刷業とあるが二十年前に福島市のボテ振から若松市の菊池新聞店の外交員として飄然二本松町に至り新聞の販賣擴張から配達迄もやつて今日の地位を築き上げた立志傳中の一人、平島先生から血の出るやうな陣中見舞金一封を贈られ壇上で



の人、平島先生から血の出るやうな陣中見舞金一封を贈られ壇上で

オイ／＼聲を擧げて泣いた昨秋であつた。二本松町會議員たる事二期で更に公立福島病院議員、郡民政部會幹事長等の公職に在り。積達時報といふ新聞も發行した事がある。孜々兀々として日夜公私の諸問題に努力し來つたゞけ撲訥野武士の風を脱しないが押しと粘りの強さを以て一意縣政と地方問題の爲めに努力したならば前途の功績刮目す可きものもあらうと思はれる。生れは伊達郡保原町で少壯にして仙臺市で花賣屋、福島市で魚行商も營み若松の菊池から鈴木周次郎君が東京日日新聞の福島縣專賣を引受けた時は君もまた鈴木君の配下に在つたこともある。熱と力とを以て相當活躍するであ

らう。希くば「一回ボツキリ」で矢部丈夫君や佐藤政藤君の如き末路を見せる勿れ。同君の當選は民政黨と云ふモノの美點で且つ缺點だつた。と嘲はしむる勿れ。

所屬	民政黨(新)
住所	安達郡二本松町
職業	印刷業
年齢	六十歳

# 渡邊信任君

縣會きつての名物男、渡邊信任君は昨秋の選舉では定員一名の安積郡から無競争無投票で當選確定した縣下七十二名の候補者中唯一人の幸運兒だ。幸運兒と云へば君が政界に乗出したのは相當舊い事は舊いがしかし今度こそとん／＼拍子に幸運を掴んだ。學歷は安積中學半途だけだが郡會議員となり安積疏水組合の常設委員となり今回はまた苦もなく榮運を獲得した譯だ。然し幸運なだけ平素選舉區たる安積郡や疏水常設委員として居住する郡山市等のあらゆる問題には斡旋努力を惜まず勢力の扶殖に手を盡して居る。君の如きは地方政治家としては正に典型的といふべき奇智縦横。政治家として



第一の必要條件たる押も強く心臓も強いこと縣議中には並ぶもの珍しい。演説はあまり遣らないが議場の驅引や裏面の策謀に掛けては最も得意とする所で四十三頭顱中嶄然頭角をぬきん出て居る。中通り地方の信夫郡から出た鈴木周次郎君とは民政派中の茶目仲間、鈴木君が一期休んで、昨秋また一堂に顔を合せる事となつたので議場の彌次振は賑つたが兩雄並び立たず仲はよくないらしい。兩君共將來は代議士として打つて出やうとして機運を狙つて居る點やアワよ

くば貴族院へも乗出し度いと考へる點など丸持仲間似通つて居る渡邊君の家業は味噌醬油の醸造とあるが其方は令息に委せ自分は殆ど政治に没頭し地方の諸問題に盡瘁して居る。現在は郡山市に常住して郷里の村長を勤める。消防界の先輩としては宗像君より古い。縣會議員の中にも親分子分と云ふ關係筋は糸を引いて居るやうだ。良く金を儲け良く散じて居るやうだ。今回の縣廳改築案で居住地郡山に逆らつて現地案で進んだ進退は立派だつた。

所屬	民政黨(再)
選舉區	安積郡
住所	郡山市
職業	醸造業
年齢	五十二歳

# 加藤 宗平君



加藤君の日本大學在學時代は、普選運動に、思想運動にまことに華々しく耀やかしい幾年だった。帝都雄辯界の明星として今でも講談社の番付に登載される發芽は此頃催して居た。されば卒業後抜かれて横濱市の社會教育主事たり若しも順調に行けば中央に覇を作す將來を期待されて居た。然るに昭和の初年、痼疾の神経痛とナルコボン中毒で病臥し遂に失意を故郷に齎らした。再起を危ぶまれる瘦軀を孤影悄然と梁川町に見せた時は希望破れ愛人さへ脊き去る悲風慘雨の逆境だった。けれど君の意志鐵の如し。闘病、之を征伏すると共に無産運動に入った。夫から一轉して民政黨に入った。今日

は縣會議員三期併せて伯父の後を繼いで町長となつて居る其上に保原町の旅館の嗣女が相續權を抛つて其懷裡に来る。と云ふやうな有卦に入つて内には琴瑟相和し外には將來の代議士候補だ。伊達の大郡を控えた一粒種である。良く讀書する點や釘本君に悪からず渡信君に善いと云ふやうな圓滿性は君を大成させる事であらう。望蜀の怨を云へば矢張りその圓滿性、融通性に甘えて居りはせんかと云ふ事が一ツ、所謂演説のウマイ割合に議場闘争力を缺いて居る事が一ツ

とも數へ得やうか。けれど何しろ年齢は若し選舉區民の氣受はよし健康も回復して居るし容貌風采も新人らしい新人だから最も前途が洋々たるものである。縣會なればこそセリ合の力が足らぬ事も目に付けれど之が國會ならば押出しと云ひ雄辯と云ひ立派なモノだから早く現在級より離れて國會へ行く工面が大切だ。何日迄も縣議だの町長だのを勤めて居ると何時の間にか「地方政治家」の型にはまつて拔差ならぬ破目に随するの惧れがある。新人加藤も一春迎へればもう四十である。自奮自勵敢然立つて帝京に天下の高志をのぶ可しである。

所屬	民政黨(再)
住所	伊達郡梁川町
職業	公吏
年齢	四十歳

# 佐藤 市太郎君



此頃も在郷軍人會長問題でグンと頑張つて男を上げた人、見るからに男性的で頼母しさうな君は前回の選舉に於て川田、金澤兩氏と三巴戦の結果僅に百十何票の差で惜しくも落選した。昨年は雪辱戦の意氣込と四年間野に在つて築き上げた勢力とに自信があつたのであらう。前回とは反對に金澤老を抜くこと六百餘票、最高點を以て華々しく當選の榮冠を獲得した。河野磐州翁以來民政黨絶對優勢の地盤とは云へ

したことは全縣下での大奮闘振りといふ可きである。家業は蒟蒻粉商とあるが、日露戦役の勇士で勲六等の武勳を持つて居り資性濃厚篤實ではあるが地方諸問題に對して熱誠努力、多年政黨員として活動し遂に今日の榮譽を獲得するに至つた。現に須賀川町の名譽助役で、町會議員に當選すること四回岩瀬在郷軍人分會聯合會長や須賀川分會長の職に在り。事實上の町長同様で町營電氣部長と水道部長を兼ね水道工事の遂行に努力する所甚大なるものがある。町に在つては一人三役も四役も勤めて奮闘して居る上に縣會議員といふ大きな仕事が一ツ殖ゑた譯だ。多年政界で鍛え上げた頭腦と手腕と町政

上より體得した實際上の智識は今後縣會議員としての活動上に寄與する所大なるものあるべく苦節四年の宿志を貫徹して縣會の檜舞臺に上つた君は正に油が乗つて來た所で前途の活躍大に期待すべきものがあるであらう。近年圭角が除かれて金持よく金の扱かひを解すといふ。

所屬	民政黨(新)
住所	岩瀬郡須賀川町
職業	蒟蒻粉商
年齢	五十五歳

生地とは云へ定員二名の所に全獲の大勝を博

# 渡邊 鐵太郎君

金と力のある好男子わが渡邊君は當年三十五歳、縣會における最年少者である。本縣會議員の年齢を見ると六十代は長老で四十代五十代が中堅、三十代が年少組で渡邊君の三十五を初めとして山田一郎君(郡山)の三十六と二人だけだ



君は今回で第三回目の當選である都路村隨一の資産家で安積中學出身の豫備歩兵少尉だが外に都路村長、常葉産馬畜産組合長、田村在郷軍人分會長等の要職に在り。故河野磐洲翁の流れを汲んで將來は中央政界に打って出づべき前途有

爲の青年政治家で郡山に別宅を持つて活躍中である。縣會に在つては多くを言はず、一期二期を見習士官として過して來たが愈々第三期生となつて君の實力と手腕は發揮せらるゝの機會が到達した譯だ温厚寡黙の好紳士ではあるが剛邁果斷、意志はなか／＼強固で容易に他人の力では動かされぬものがある。縣會の年少組には新入生となつた山田一郎君など何れも特長のある有爲有能の士が多いが君も亦た將來に伸ぶべき素質と好地盤の所有者で美やまれて居る。之迄も農村更生、産馬畜産振興等に對しては一家の主張を有し時に縣會に於ても其一端を示して來たが今後大に精勵。練磨したならば代

所屬	民政黨(再)
住所	田村郡都路村
職業	農業
年齢	三十五歳

# 大越 軍三君

信任親分は何時も「大越大越」と傍をはなさず腰巾着扱ひにするが如何して仲々のキレモノである。縣議でも代議士でも三回目是最も危険な時だのに政友會の大物大木代吉君を向に廻して悠々最高點を以て當選して居る。それは君が平素公僕として地方諸問題の大小となく奔走斡旋して居た報酬であらう。本年四十三歳、人生將に之からといふ壯年期だ。大に奮勵努力す可きだ。栃木縣寄居生れで東京外國語學校蒙古語科出身といふ變り種、三菱の駐支社員となつたり



於る質問など辛辣な處もある。体格も五尺四五寸あり相当押も強い

外務省囑託情報部員や、東京朝日新聞記者たりしこともあり。極めて活動的な人で、事の大小となく動いて居る。辯舌も輕快で縣會に

新聞記者たりしこともあり。極めて活動的な人で、事の大小となく動いて居る。辯舌も輕快で縣會に

- 一、農村負債の輕減と中小商工業の振興更生を圖る
- 一、河川道路の改修、開發と地方産業の振興
- 一、教育の振興と改善

所屬	民政黨(再)
住所	西白河郡白河町
職業	新聞記者
年齢	四十三歳

居るが体も頑健で精力も旺盛だ亡兄の遺業「東北毎日」といふ日刊新聞を經營してゐる外最近福島民友新聞社に入社したが釘本議長が福島新聞社長になつたりしたので民友入には厭氣がさしたようだ。夫人は有名な賢夫人で家庭は至極圓滿である。

# 大木代吉君



各種團體、組合等に關係を持ち徳望と資産とを兼ね備へて居る資産家や事業家などは信望に於て缺く

政治家としても優れた素質を持つて居る。君の如き選良が多く縣會に出る事は正に選舉肅正の時代に適任者を得たるものといふべく政界刷新の清涼劑を注入する點より見るも極めて緊要な事である。本縣會の品格を向上せしめ地方産業の振興を圖り政界の革新を期する上に君の大成を囑望するもの、たゞ吾等に止まらんや。その趣味に十六ミリの寫眞がある事など紳商らしくて面白い。

昨春、西白河郡選出の縣議中目武功君病歿の後、六月執行の補缺選舉に推薦されて無競争で當選したものの、其後一度も議會が開かれなない爲め出席せずに終つた。全く犠牲的の議員であつたが二回目も立派に當選した。矢吹町の素封家で代々酒造業を營み福島と白河にも支店あり。堅實なる實業家として銘酒「樂器正宗」の名聲と共に地方の信望高く將來は貴族院議員や代議士にも推擧さるべき人で仲西代議士は尻のこそばゆい感じであらう。然も嘗て郡會副議長たりし事あり、現在は縣農工銀行監査役矢吹銀行頭取、縣南木炭同業組合長、縣酒造組合評議員、西白河郡酒造組合長等の要職に在り、其他

る處があり徳望ある者は資力にて乏しき者の多いのは世の常であるが君の如く兩者を把持して世の非難を受けず圓滿玲瓏たる實業家は珍らしい其上に君は慶應義塾理財科の出身で學識に於ても上層階級に屬し縣會議員としては第一流の人物である。然も性格は濃厚和淳。眞摯懇切にして相對する者をして春風駘蕩の感を抱かしめる。頭腦も精密明敏。實業家としても

所屬 政友會(再)  
住所 西白河郡矢吹町  
職業 酒造業  
年 齡 五十七歲

# 蓮沼龍輔君



縣會議員 求めたら充つ第一に指を折られるの殆ど大部分が縣内人であるのに蓮沼君は大越君と同じ

た事で清新な空氣を我が縣會に注入し得るものと期待してゐる。殊に座談に長けて圓轉滑脱、まさに近代的の社交家でもある。任期中に必ず大きな足跡を残す一人であらう。焦らずにシツカリ行く事である。腕の人、熱の人の將來が大きく待望されて居る。十二月十一日の議場など同郡の小野君が一席辯じて居る處へ傍聴に金成通君が見えた——と見るとスツクと起つて臨時に一席辯じて先輩に見せるなど目から鼻へ抜ける程なキビくした男前である。

き栃木人で足利郡筑波村生れ。今年四十五歳の働らき盛りといふところ。郷里の中學校を卒業すると世の中に飛び出した。平町に移住したのは大正十年ごろだつたらうか。炭坑を経営したり石炭商をやつてゐたが間もなく獨力で警城新聞社を創設し日刊警城新聞を發行してゐる。同社長としての蓮沼君は常にはち切れるやうな元氣で社務に當つて居る精力家だ。ヂツとして居られぬ活動家を縣會議員中に

求めたら充つ第一に指を折られるであらうとまで云はれる。蓮沼君が十數年で今日の地位を築き上げたのは決して偶然でない。此の活動ぶりは鈴木代議士に認められて今日では同代議士と蓮沼君は切つても切れぬ間柄になつてゐる。縣會議員選舉には初陣の蓮沼君が石城郡の混戦地で當選したことは同君の熱と力が選舉民に好印象を與へたためであらうが、鈴木代議士が推薦の力瘤を入れて交友としての蓮沼君のために努力した事も興つて力ある。蓮沼君もいゝ知人を得たものである。更に一面溢れる如き熱意と正義觀に燃えてゐることが常警炭界の支援となつた次第で郡民も同君を縣會に送り出し

所屬 政友會(新)  
住所 石城郡平町  
職業 新聞業  
年 齡 四十五歲

# 白岩忠夫君

常葉町の名望家で累代醫を業として居る。新潟醫專の出身で助川代議士の義兄である。之迄政界にはあまり顔を出さず醫業に専念して来たが昨年の選挙には肅正の浪に乗って打つて出で見事に當選の榮冠を獲得した温厚篤實の好紳士だ。政友會には屬して居るがまた少しも政黨すれのしない政界刷新の叫ばれて居る現代には最も必要な選良と云ふ可きである極めて明朗な性質で物事に表裏がなく相會する人は敵も味方もなく胸襟を開いて快談する。秘密が大嫌ひで内



容の暗い政治などには絶対に参加出来まいとの事である。趣味は謡曲で酒も若干いける。微醺を帯びては追分や安來節などを美聲で唄つて聴く者を恍惚とせしめる。地方問題には常に熱心に研究をして居り、正確な認識と指導原理とを把持して居るから、今後縣會に立つて、地方問題に當面した場合に犀利、明敏なる批判と論議とを以て萬丈の氣を吐き、縣政と選挙區との爲めに盡瘁貢獻する所あるべく大なる期待を以て其日が待たれる。本年五十一歳の少壯働盛りであるから將來の活躍は大に見る可きものがあらう。本縣會には何時も二三の醫師があつて變り種が多いが今度の縣會にも君の外醫

者の議員さんは河沼の渡部晴松君と双葉郡の志賀尠君との三人で夫々特長をもつた新議員である。縣會に於けるお醫者さん連のトリオが如何なる美技を演出するかは頗る興味ある見ものであると見ねばならぬ。瀟洒たる伊達姿で精々が四十歳位にきり見えぬ。

所屬 政友會(新)  
住 所 田村郡常葉町  
職 業 醫師  
年 齡 五十一歳

# 大内一郎君

練達の議長が折々トツチメられる相手(反對黨)は大内君唯一人だ先例典故や議事規則の生字引たる大内君には流石の議長さへシテ遣られもするむべなるかな此人が縣會に入入するもの廿七年間、縣政の神様のやうなモノだ。安達郡針道村の豪農が嗣と生れて二本松に育つた。天才的な文筆あり、廿歳にして福島新聞に入り「逸堂」のペンネームが全縣に鳴つた。早く政友會に投じて支部常任幹事となり立憲自由青年會を組織して「知事川崎卓吉を逐ふ」など華々しい活歴史を持つ人。中道にして早稻田大學政治科に學んで交友も天下に廣く本部では代議士級を以て遇せられる。所論の正確と創意に富め



るは定評ある處、然も口を衝て出る皮肉と洒落は眞に獨壇場である福島民報主筆、讀賣新聞支局長を歴任する一方に公立病院議員、郡會議員、縣教育會代議員、縣參事會員其他の公職に従がふて常勝將軍である上、縣會議員は三期になる。昨秋は全郡四候補第一の最高點、五千十票を獲得して支部幹事長たる貫録を示した。政治的には現在の代議士も大部分は大内君の後輩だから次回は積達を中心にして晴の立候補となるだらう。豪放磊落、風采を飾らず。と見られて居

るが實は細心周密で純情であり乍ら其間に策あり略あり、二本松自動車社の社長や、金華商事の重役も勤めて居る。非常な義理固い人で先輩や知己の没後の面例を良く見たり青年を育成したり他人のせぬ事を敢てして居る美談が多い。更には驚く可きは汝々として地方の仕事や努め乍ら毫も尊大ぶつたり恩に着せたりせぬ事と自己の全収入を擧て選挙民へ物を與へ金を恵んで居る事であらう。之等の陰徳が陽報となる時、君の前途は洋々。やがて堀切善兵衛君が打倒される日も来るであらう。趣味は俳句と將棋で俚諺もやりヘナブリもやる

所屬 政友會(再)  
住 所 安達郡二本松町  
職 業 著述業  
年 齡 四十六歳



### 渡邊祐之君

皆川應助君と同じき北會津郡神指村北四合の名家の出身で明治十六年七月二十一日生れ。三十五年の春會津中學を卒業すると駒場の東京帝大農科に入り三十八年春農學實科を卒業した。君は業を卒へると直ちに歸省して自宅で農業に従事し郷土産業に従事し郷土産業のために渾身の力を盡した。君が地方農業技師となつて官界に入



つたのは大正十五年で續いて北會津郡農會長となり郡煙草耕作組合

は長い。農業界の功勞者たることに於て縣會議員中渡邊君の如きは尠ない。農村としての神指村が斷然光つてゐるのも同君や皆川君等の活動に與かる處が甚だ多いといはねばならない。君は農業人へのみ發見される着實さを持ち、熟慮研究の上確實性を認めた上でなければ容易に實行に移さないといふ美點がある。安受合ひはしないが「引受けた」と云へば先づ大丈夫であらう。こういふ點が政治家として頼母しい。縣會には昭和六年秋選ばれて議員となり今度で二度目の榮譽を擔つたわけであるが本縣の農山村は特に非常時だ。渡邊君の如き眞摯な議員を求めてゐること甚だ急である。吾等は君の態度

の中に學ぶべき多くのものを發見する。君の健闘を心から祈つてやまぬ次第である。其好物は酒。黙々として微笑しつゝ斗酒なほ辭せぬ。其癖に有勝な婦人關係の噂一ツないパパである。

所屬	政友會(再)
住所	北會津郡神指村
職業	農業
年齢	五十四歳

### 鈴木周次郎君

何處でも何日でもエヘラノと薄笑ひを泛べながら何か突拍子もない惡戯の種を搜してゐるといつたやうな大きな茶目坊、和製ドン・キホーテ事鈴木周次郎君は全く毒のない愉快な存在である。君の途徹もない無軌道式言行は早く少年時代から萌してゐた。まだ誰も鮮滿地方杯は遠い、歐米と同様で難儀なものに考へてゐた頃であるが君は十六歳福島中學の三年かそこらで一大雄飛を試むべく單身高飛びをした事があるのだから今日あるも偶然ではない。曾ては貴衆兩院の議員を勤めた信夫民政派の大御所、杉妻長者周三郎翁を父とし僅に父君と十七歳ちがひで何不足なく生れた身だかそこは平凡



嫌ひな性格だ。金儲が上手で一夜五十萬圓を大倉喜八郎より受取るどソツクリ其儘親父へやつて置く位だ。然し親父さんとは頗る仲がヨスギテ常に犬と猿の様にイガミ合ふ。甚だしい時は法廷に迄持出して互に黑白を争つた事さへある

昨秋の選舉にも二度目だが郡内の同志へは一應の相談もなく突然出馬を聲明したので「黨規を紊す彼の如き奴は速かに除名すべし」と支部に我鳴り込んでイキリ立つたのは當の親父さんであつた。君の道樂は數多いが第一は煙草で一日

三圓は煙にして了ふ。(それも素張らしい上等の葉卷である)。次は女で北裡邊には君に「女」にして貰つた若い妓は箒で掃く程あるといふ噂である。艶福美むべき一方に愛妻家の筆頭で子煩悩とは可笑しい次は惡物食ひで蛇だの蛙だの虎だの猫だのといふ人の容易に食べないものを食べて威張つて見たいのである。此チャメが今後の縣北政界に果してどんな芝居を打つか逆堵す可らず。代議士にも貴族院議員にも推される立場だ。

所屬	民政黨(元)
住所	信夫郡杉妻村
職業	農業
年齢	四十五歳

# 矢内清次君



何しろ縣帳がキツカケとなり五百名に餘る議員にも買収犯を出した。爾來十一年、蝨なる程の者して郡内の集會には出なかつたが自分の生福島支部の集會には必ず足を運んで居た。其收獲が一昨秋の補缺選で村會議員に現はれて待望の議員になつた。故頌藤翁の培つた郡北三村の地盤に惠まれた譯だ。處が今春の代議士戦で非公認の林君を擔いだ結果が驚く勿れ得票千とナニガシ。一方に三田派の幹部が擁した公認仲西君は三倍の三千ナニガシで形勢が顛倒して終つた。之は順逆の然らしむる所で敢て林君弱かりしに非ず。また仲西君強かりしに非ず。要は民政黨そのモノが固くて天然自然と分流した譯でもあらう。けれど畢竟、損をしたのは矢内君で折角の脚下がグラついて郡産馬組合議員も新人に奪

はれた。竹貫水電も色々な野心家が出て居る模様だ。近年はトラツクの貨物運搬屋を始め居る更に乗用車の貸切も許可を得たのだつたが之は車を買はぬので今春許可取消處分を受けた。今後の同君が政治的な或は經濟的な立場は注目に値する。然し折々飯坂湯野邊へ行つても膳の上にビール一本止りで。頗る堅實だと云ふから存外に安心かも知れぬ。夫人が琴曲の妙手で才色双絶なのは有名な話だから其邊は此感化指導が宜しきを得て居るのかも知れぬ如何で御座らうか。

所屬 民政黨(再)  
住所 東白川郡竹貫村  
職業 農  
年齢 五十六歳

# 片平万吉君



昨秋は選挙の當初に於て定員二名に對して政民一名宛の立候補で無競争に終るのではないかと噂された信夫郡も政友會の齋藤吉兵衛民政黨の片平万吉兩君が公認候補と決定するや俄然民政黨の鈴木周次郎政友會の佐久間佐一郎兩君が非公認で出馬し卅字巴の大激戦地と化した。齋藤君は政友會の元老鈴木君は前期四ヶ年間休養した民政黨の風雲兒、佐久間君もまた多年縣議たらんとして機會を窺つて居た新進の一勢力、此間に立つて

方からの挾撃に容易ならざる苦戦であつた開票の際の如き齋藤君と一上一下する得票で當落を氣遣はれたが、結局は齋藤君を抜くこと約六百票の多數を以て美事に當選の榮冠を獲得した。遺がに御大將たるの面目を輝やかしたもので未だ壯年を以て當選二回、將來は故紺野氏の後を承て代議士として國政に參與するの目を豫想される。舊名一郎、餘目村の素封家故萬吉氏の長男で資性濃厚篤實、玲瓏たる典型的紳士である。縣立蠶業學校の出で嚴父歿後襲名し前期縣會議員選挙に際し輿望を負ふて大多數を以て當選以來縣政壇上に立ちては堂々たる雄辯と眞摯熱誠なる主張とを以て縣政に努力貢獻せ

る功勞尠からず。今回の當選蓋し故なきに非ずといふ可きである。君は豫備陸軍歩兵中尉で消防組頭村會議員、公立福島病院議員等の要職に在り。縣會議場で最も行儀の良いは此人が第一。モーツ縣會切つての好男子——縣議になつてから著るしく明朗快活になり人物が鍊れて來たとて好評だ。

所屬 民政黨(再)  
住所 信夫郡餘目村  
職業 農  
年齢 四十二歳

前回最高點で當選した片平君も三

### 志賀

### 越君

志賀君は彗星のやうな政治家だ。二回も三回も落選して萬年候補なごど云はれる人が相當多い世の中に初めて立候補して當選してしまつた。それも今日まで町村會議員とか消防組頭とかをしてゐたといふやうに政治的に扶植した地盤があるわけが無かつたのだから凄く。明治十三年十二月十九日双葉重大堀村大字田尻字後田一五三に生れた。今年五十七歳である。東京慈恵會醫學校を卒業すると、直ぐ



浪江町權現堂の現住所に開業したそれは明治四十三年八月九日で志

賀君が數へ年三十一の夏である。爾來今日まで滿二十五年間といふもの、志賀君は醫師としての精神を完全に把握して、仁を爲すことに於て其の名を爲してきた。患者貧しければ哀れみ物乏しければ是れに恵んで私財を顧みる處なき程清廉の士である。刀圭界稀に見る人格者だけに其の縣議當選は不思議でない。開業醫が都市にのみ多く山村に尠なき本縣は恩賜の施設による巡回診療班と日本赤十字社支部の巡回班が山又山の奥地へ診療に廻つてゐるが村内に開業醫がないために一度傳染病などの發生した場合は止め度もなく蔓延してゐる事實があり今や社會問題としての醫事衛生は重要な事項となつ

てゐる際に志賀君の如き人を縣會に迎へたことは誠に心強いことと云はねばなるまい。「桑野村太郎君が志賀君の政見發表演説を聞いて其の誠意に動かされた」といふ話がある。其辯論に於ける眞率な態度が知れるといふものであらう。釘本議長と無二の心友で昨秋も無理に頼まれて止むを得ず出たのだといふから君の縣會に於ける手腕は元より未知數だが、高潔君の如き人格者の存在は慥かに一服の清涼劑には相違ない。是非モウ二三回は地方の犠牲になつて欲しい

所屬 民政黨(新)  
住所 双葉郡浪江町  
職業 醫師  
年齢 五十七歳

### 高野 與祖次郎君

多く辯ぜずコセつかず。何處もなく氣品のあるもむべなるかな。

高野君は明治七年三月、相馬武士の家に生れた士族である。福島蠶業學校を卒業するや職を横濱生糸検査所に得た、高野君がシヤムに招聘されたのは生糸検査所に居たのが縁となつたもので同國農務省技師として常夏の國シヤムに赴いた高野君は准國賓としての待遇を受けたといふのだからたいしたもののである、シヤムでは主として農業指導に當り同國農業のにめに貢献したことは絶大であつた。海外生活九年で歸國したが、郷里へ歸ると當時の相馬郡立農業學校(相馬農蠶學校の前身)に招聘されて教壇に立ち地方農村子弟の教導に



専念した。縣會議員で海外に渡つた者も居るが高野君のやうに九年間も行つてゐた人は他にない。大

正八年に相馬郡八澤村長に就任して現在に至るが、他に郡養蠶組合長として養蠶業の指導に當ること多年、養蠶家からは神の如く尊敬されてゐる。政治家としての出足は早い方ではないが縣會議員の候補者に推薦されたことは今日まで幾回かあつた。然し高野君は其の都度また時機ではないと拒絶してきたのである。選舉で世の淺ましさが分つたと云つてゐる程の眞面

目な人で些かの欺瞞もなく清廉潔白、直情生一本の性格である。こんな人が一つの議席を占めることも清涼劑的な存在となつていゝのである。此故か、釘本議長は同君を信する事深く且つ厚い。模範的な眞面目な議員である。

所屬 民政黨(新)  
住所 相馬郡八澤村  
職業 農業  
年齢 六十三歳

### 渡部 晴松 君



八田代議士が多年築き上げて来た政友絶對優勢の河沼郡から民政黨候補者として立つた君は政友會の元老石田俊夫君を蹴落し三千四百三十四票の最高點を以て見事に當選した。初陣の闘將として故酒井翁以來異數の大勝である。本年五十三歳。東京慈惠醫專卒業の醫師で北海道に開業し其後現在の野澤町に歸つて専心醫業に従事し「醫は仁術なり」のモットーを掲げて地方民の效護に力を注いで来た平素の陰徳が今度の選挙に報いられたものといふ可く、徳望の厚き

過般の選挙でも自分から進んで出馬するの意志は無かつたが地方民は遮二無二「是非渡部先生を縣會議員にしたい」その熱望から擔ぎ上げられたのである。それだけに所謂政治家型の無い好紳士である

所屬 民政黨(新)  
住所 河沼郡野澤村  
職業 醫師  
年齢 五十三歳

### 草野 三郎 君

瘦身長軀、座臥往來に古武士の風格ある草野君は石城郡赤井村の人、明治三年七月一日に産聲をあげた。特筆すべき程の學歴もなくして赤井村長、赤井村消防組頭などを經て縣會議員になつた、今度で二度目の當選だが汝々として良く勉強して居る。精力の方も山田君と兄たり難く弟たり難し。若い者など顔マケして居る。何しろ定員六名の縣内隨一大選挙區で最高點當選といふのだから、其處に君の「力」も判る譯だ。かつて石城政變の起つた際に非政友のグループに残つたのは木田織江、志賀伊之松、草野三郎君等を始め故田子英吉翁其他數名であつた。顧みれば夫等の人々の多くは既に物故し、新た



なる顔觸によつて民政黨を固めてゐる。今日に生き残りの草野君は如何にも佗びしいが其の壯者を凌ぐ元氣で元老としての貫録を見せてゐる。その戦績を見るに田子英吉翁の地盤をそっくり受け繼いだかの觀があるのにつけても君が往年の石城政變に孤壘を守つた餘徳が偲ばれる。縣會議員としての君の存在は此處に今更喋々を要しない。石城郡民政黨の人々は「多年民政黨のために盡力して居ればこそ今日最高點で當選する程の草野三郎で居られる事と」小我を捨て

大乗的に黨のため努力したればこそ遂に酬ひられた標本」とを草野君に發見奮發す可きで無い乎。全議員の中で第二の年長者に當るが、前にも述べた通り精力絶倫カクシヤクたる事正に若い者跣足である。恒に闘志満々として征伏すべきものは、苟くも之を征伏せずには措かない丈の、熱と粘りと押し強さを有つてゐる。この張切つた力が或は今日の君を築き上げる事に極めて有効だつたのかも知れない。一層自愛自重を希望して止まぬ。

所屬 民政黨(再)  
住所 石城郡赤井村  
職業 農業  
年齢 六十七歳

# 關内正一君



あるだけに  
光彩を放つ  
關内君のよ  
さは大學を  
出ながら世  
の常の多く

に期してゐるのであらう。同君が  
其言明の通り抱持たるの犠牲的精  
神を以て活躍するならば井上氏も  
満足であらうし新議員中で期待  
さるゝ所以もまた其處にあらう。  
春秋未だ壯。大成を計りて自重自  
愛せよ。同君は石城の大元老、元  
代議士木村清治氏の令甥に當る。

如何にも大家の旦那様らしい風  
采の關内君は明治三十年三月四日  
石城郡大浦村に生れて磐城中學か  
ら早大商科に學んだ。平町二丁目  
で油商を営んでゐるが昭和四年に  
平町會議員となつてから二期。現  
に消防組頭副組頭として井上茂作  
氏の子女房役であり平庶民金庫  
理事、平町農會副會長、平製氷會  
社取締役なども勤める。井上老が  
勇退した後を受けた縣會議員振も亦  
た其よき後繼者であることも組頭  
振と共に選舉民が先刻御承知の筈  
である。井上翁が七十歳の老齡と  
いつてもまだ隱退するには元氣が  
あるのに後進の途を開くべく敢然  
として關内君に譲つたのも美談だ  
しそれが譲り榮えのする關内君で

の青年が志すサラリーマンになら  
ずに商人になつたことである。間  
もなく商才と識見が認められて前  
述のやうな各種の要職にある。ま  
たむべなるかなだ。此關内君は其  
政見發表演説で「私は石城四万の  
有権者のために良き抱持になりま  
せう」と云つたことが有権者に感  
動を與へたと傳えられて居る。然  
り謙和にして信頼するに足る良き  
抱持は善き公僕である。即ちよき  
縣會議員となる事を關内君は心中

所屬	政友會(新)
住所	石城郡平町
職業	油類販賣業
年齢	四十歳

# 野崎満藏君



比佐代議士派に對抗して野崎派  
といふのがあつた。一郡の内に民政  
黨部會を二ツ持つ所に野崎君の偉  
大さがある。野崎君は石城民政黨  
が擧て比佐氏を應援した時も、敢  
然として氏

然として氏  
家清氏を援  
助し縣會議  
員には今度  
で三度目の  
當選だが毎  
回の勝手に豫選會を開きサツサと名  
乗りを揚げて當選するのだから愉  
快な話である。夫だけの信用と地  
盤を扶殖してあるのだから當然だ  
と云へばそれまでの話だが今日の  
力は一朝一夕に築き上げられたわ  
けではない。明治十四年五月二十

町會議員たること三期、平電力會  
社、小田炭坑の重役でもある。先  
年縣が自動車の道路損傷負擔金徵  
收の案を縣會に提案せんとするや  
野崎君は縣内自動車業者の急先鋒  
となつて反對したが及ばず遂に同  
案は可決されたけれど同僚は自分  
の信するところに邁進する野崎君  
の氣概に感心して居た。或は非難  
攻撃の的となり或は惡鬼の如く罵  
られ白刃に見舞はれなどして人間  
が出来てきた野崎君である。今後  
の活躍を期待する。夫人は新田町  
で有名な藝妓屋柏家の女將で同君

の後援者の筆頭が小田吉次君たる  
事は衆知の事だ。で流石の同君も  
此二人にはオトナシイ相だ。が夫  
人の小言もアノ方面だけは効果が  
薄い程な相當の粹士であるらしい

所屬	民政黨(再)
住所	石城郡平町
職業	自動車業
年齢	五十六歳

# 岩崎光衛君



政治家は しい若いモンだ。昨秋は立候補不  
多く尻が重 可能と當人も観念して居たらしい  
い。院内の が相手方の後藤君が才智餘り有る  
交渉係など 故の不人氣で腰砕けとなり案外に  
使ひ走りは も三度目の出馬となった。若松市  
誰も嫌がる は民政黨が強くて然も人物なし。

中で獨り岩崎君だけ尻が軽い。志  
願して請取つてサッサと行く。が  
貫録の關係もあつてアチラの方で  
仲々云ふ事を肯いて呉ぬ。其處に  
此人の長所もあれば短所もある。  
重寶な人であるが重きをなさず何  
年経ても手淫的自負に酔ふて居る  
状態だ。ソレで警部補だの鐵道屬  
だの勤めた昔の氣が抜けぬか官僚  
を有難がるやうに「知事閣下に於  
せられては」などと申す。およそ  
民權自由發祥の本縣々議には珍ら

を晦ましてしまつたものである。  
白井氏は一時驚いたがやがてニン  
マリと微笑して咎める事をしなか  
つた流石に白井頭取は偉かつたが  
恁んな大膽な仕草は小野君だから  
こそ出来る大芝居である。膽力の  
要る問題なら小野君でなければ駄  
目だ。明治  
十八年十月  
十六日生れ  
中學を卒業  
した。ソレで  
大正十年六  
月に小名濱町會議員となつて以來  
三期。大正十二年九月に縣會議員  
をヤツてゐるので今は二度目であ  
る。消防組頭たりしこともあり一  
昨年二月に町長となると多年努力

モノである。一昨年、縣參事會員  
在任中は業務多忙とあつて殆ど出  
先へ泊らずに若松へ歸り毎日通勤  
して居たと云ふので同僚も其精勵  
に魂消て居た處、何ぞ圖らん汽車  
は大部分が東山邊で停車して會津  
へ動かなかつたらしい。と云ふ話  
で二度ビツクリー」など傳える  
エピソードも無きに非ず。二號は  
誰か。など取沙汰されたが家庭は  
圓滿で殊に老父君が益々健在。選  
舉など迄なか／＼の一家言を發し  
て取巻連を惱ます。と云ふのだか  
ら先づは目出度し。

所屬 民政黨(再)  
住 所 若松市榮町  
職 業 辯護士  
年 齡 四十七歲

# 小野 晋 平君



小野君は意氣と力の男だ。直往  
して萬事もキビしくしたモノだ。  
チョツと丸持長者に類の無い柄だ  
會て先輩白井博之翁が縣農工銀行  
頭取時代に重役の椅子の數で採め  
た事がある。當時銀行側は大株主  
である縣との關係もあつて委任株  
を多數持つてゐる政友支部の主張  
を容れるわけにもゆかなかつた。  
ごた／＼中に愈よ總會を開くこと  
になつたので白井頭取は腹心であ  
る小野晋平君に銀行に集つたゐる  
委任狀の行使權を託した。小野君  
は腹心でもあるし勿論銀行側の意  
志通り取圖らつて貰へること、思  
つたからである。然るに小野君は  
多くの委任狀を持つと政友會支部  
の注文通りやつて退けサッサと姿

してゐた小名濱商港の實現に本腰  
になつた。此完成は嚴父から相續  
の大事業で再び縣會に名を連ねた  
のも實に大小名濱港のため縣政に  
携つて居なければならぬとの信念  
故の出馬であつたらしい。細心に  
して大膽な同君に選舉民は信賴し  
ていゝだらう。今夏の臨時縣會に  
野崎君の不信を面罵したあたり仲  
々の好風景だつた。ヤンチャな愉  
快な坊チャン振である。近い代議  
士候補を以て擬される。近頃の縣  
廳改築案でボンと延期論を叩きつ  
けて人目を聳やかしたなども此人  
らしい獨壇場である。

所屬 政友會(元)  
住 所 石城郡小名濱町  
職 業 酒造業  
年 齡 五十二歲

### 川田 正 智君

父子相傳の政治家が川田君である。先考正高氏は青年時代西郷南洲翁の膝下に在る事数年。歸郷後は自由黨員として地方公共の事業に貢献する所多大なるものがあつた。不幸三十一歳の壯年にして夭折したが君は父君の血を享けて外柔内剛で仁俠潤達の士だ。少年時代に父君を喪ひ安積中學を半途にして退いた。此時代の同級生に仲西三良あり、三田暉次あり。斯くて家業に従事するの傍ら居村の公事に盡瘁して大正八年には村助役に推薦され村會議員を兼て居た。其後議長に當選すること四期。前回の縣會長員選舉に衆望を負ふて立候補し金澤治右衛門、佐藤市太郎兩候補を向ふに廻し最高點を以て當選した、昨秋の選舉に於ては前回惜敗した佐藤君が最高點となり政友會の老雄金澤翁を蹴落して君は第二位を以て悠々當選した。



君は多年農村の開發、産業の振興青年の指導等地方諸問題に盡瘁して來てあるので其信望は牢乎として抜く可らざるものがある。表面は溫柔の様であるが一度重要問題を提げて奮起するや雄辯滔々何者をも恐れざるの意氣と地方民衆の爲めには寢食を忘れて奔走努力するの熱誠がある。縣會議員として信頼し得る有爲の材である。體軀

は小さいが腹は大きい。よく人を容るゝ度量あり。二回の當選であるから縣政上にも理解と體驗とを把握して將來の活躍大に見る可きものがあらう。更に公立病院議員其他數多公職を占て居る。明治二十二年九月二十一日の出生と聞いて居るから四十八歳だ。好漢また少壯だ。大に自重自勵して乃父の遺志を繼いで大成せられんことを切望して止まぬ。趣味は將棋と日本音楽の由だが柳暗花明の間で苦勞した割に女共には優しい。

所屬 民政黨(再)  
住所 岩瀬郡白方村  
職業 農業  
年 齡 四十八歳

### 物 江 浩 君



精々が五十歳台にきり見えない若々しい物江浩君は縣議當選五回目である。そして本年六十九歳、縣會中の最年長者で、役員選舉の臨時縣會には、假議長の椅子に据はつた次第だ。本縣政友會の長老で政友會が多數であつたならば當然議長に推さるゝ處であらうが不運にも政友會が民政派の半數にも足らぬ十三名の少數といふ憂目を見たので遂に實現不可能となつた然し政界に馳驅する事三十有餘年縣會だけでも二十年に近き老巧。練達の士であるから議場に於る駈引や應酬等は馴れたもので殊に聲を張上げての叱咤や呼號は近來低調に墮した本縣會に一服の清涼味を注射して居るがソレで仲々ユ

1モアにも富む。耶麻郡駒形村の人で少壯時代より政界人となつて

振は興味を中心となつて居るが年齢から見ても政界多年の經歷から見ても物江君は目ざましい。最後に物江君の人物を端的に知るよい話がある。昨年の選舉に方り、世を擧げての肅正運動にすつかり共鳴感奮した君は卅數回に亘る政見發表の演說會にも一切乗物を使用せず。草鞋ばきで文字通り東奔西走したのである。野武士の如き君の義理固い几帳面なある半面が窺はれて誠に奥床しく思はれるではないか。それだけ親分八田代議士の親任も厚い。恐らく死ぬ迄の議員生活であらう。

雄辯と辣腕とをもつて鳴つたものである、老境に入つて圭角も取れ三十年の修練に圓熟して穩健着實の境地に到達し抱擁力の大も加へて來たけれど性來の氣骨と意氣とはまだ消磨せずに残つて居るから今後の活躍は頗る見ものである。昨年の縣會に四年間休んで返咲きをしたのが物江君の外に伊達の松田甲次郎君、信夫の鈴木周次郎君石城の小野晋平君である。何れも四人四色の變り種だけにその活躍

所屬 政友會  
住所 耶麻郡喜多方町  
職業 農業  
年 齡 六十九歳

# 富田 勘之丞君



的の大家で  
渡米も果し  
たし長き聖  
恩まで辱け  
なふして居  
る。現に伊

富田君の復活は議場に重きを加へたもの一つである。特に政友派は總帥を迎へた如き感があるであらう。輝やく経歴、立派な風采、莊重な能辯、悉く縣會の花となり光となるであらう。則ち元の帝蠶委員でもあり誰が見ても代議士級の人物たるを疑がふ者は無い。同君には今更に縣議など本人が寧ろ迷惑かも知れぬ。伊達郡伏黒村の生れで六十二歳。白髪こそ滋けれど偉丈夫である。陸軍工兵曹長で日清日露の兩大戰に従ひ勳七等功七級に叙された。早く郡會議員として有名な鐵橋騒動の流血事に逢ひ乍ら暴徒包圍の裡に碁を打つて沈勇に驚かれたのも一ツ話である。今日では蠶糸業者として全國

達郡蠶種同業組合長、伏黒信用組合長、本縣購販聯理事長、本縣蠶種聯組合長、大日本蠶糸會評議員などを勤める外に三期の縣會議員であるが何故か人に容れられぬ。人に好かれぬ。嫌はれる。と云ふ處があつて再度まで無惨の落選に泣いた。昨秋もサウであつたが石川君の辭職で返り咲くと其日「即日に縣廳の廊下を肩肘張つて巡回して居た」など噂される。此程も縣購販聯で鈴周君に爆弾を投ぜら

れて弱つた。など云ふ事實も此「總スカン」が禍して居るらしい。潔白な直情徑行の質は名門の子にふさわしいが後輩のカンゼン君が代議士に重選されるのに吾が富田君は二十年一日の如く堀切黨の一縣會議員で終つて居る。好漢惜しむ可し。或は國政を議するの目を與へられずに終るかも知れないのは吾れ人ともに残念な事でないか本縣蠶業學校卒業で長老待遇。その一門みな榮ゆ。令嬢は縣立圖書館長阿部君の好配だ。

所屬 政友會(再)  
住所 伊達郡伏黒村  
職業 蠶種製造業  
年齢 六十二歳

# 二 瓶 謙 二 君

之はまた珍しい教育家出身の變り種である。今度で當選二回。謹嚴實直の士、議場で凡ゆる問題に對して意見を述べるので一言居士の綽名がある。然し君の一言は不眞面目な一言ではない。總てに對して研究的態度の現れでまた議場の驅引と急所を掴む事に馴れないのみだ。が全員が殆ど眞面目に聞いてやる親切を缺く事になつて居る。然し熱心と努力は進歩發展の根源だ。修練を積んで二期生と

なつた君の  
議場に於る  
活躍は大  
に期待され  
るものがあ  
る。師範出  
る。八田代議士の郷閭であり多年心血

- 一、産業の統制問題
- 一、交通の完備
- 一、凶作對策
- 一、金融機關の整備
- 一、教化の向上
- 一、徹底的財政税制の均衡

を注いで開拓した政友會優勢の地盤である。が昨年の選舉には政友會から政友會の元老石田俊夫君が出馬して民政黨の渡部晴松君と三巴戦を演じ政友の全獲を策したが石田君が落選して君が當選した。君の美點が大衆の認識を得たのであらうが又た石田君が飽られた好機會でもあつたらう。茲で勉強と自重が肝心だ。十二月十四日の本會議で「オニツ」と体操の眞似を演壇で始めて満場をアツと云はせた程に明朗な好々爺である事は間違ひ無い。

所屬 政友會(再)  
住所 河沼郡廣瀬村  
職業 農 業  
年齢 六十歳



なつた君の  
議場に於る  
活躍は大  
に期待され  
るものがあ  
る。師範出  
る。八田代議士の郷閭であり多年心血



### 小松 茂藤治君



眞實一念の政治家。其標本を小松君に見る。頭腦明敏、辯舌も爽やかで迫力の強い君の如きは地方議會稀に見る所である。早大法科の出身で永く本宮町長の椅子に在り自治、行政の實際に精通し、町民多数の信望厚く縣會議員に當選する事三回。前期に於て副議長の要職に推舉され、釘本議長の女房役として立派に職責を全ふした。昨年の東北地方凶作救済運動には中央に乗出して目覺しい活動を續けて多大の功績を収めたのは萬人衆知だ。幼名は功造。名門の出で穩健

誠實、而も意志強固にして四十三議員中で將來の代議士として囑望さるゝ第一流の人材である。昨冬の縣會に於ても再び釘本氏が議長となり君が副議長の椅子に据はつたが議長としても立派に其職を遂行し得るの實力を持つて居り副議長としては最も適任者である。郡山合銀の副頭取をした素封家だけに上品にして堅實温健な點はよく實業家出身であることを裏書して居る。場當りや人氣取りなど浮薄な點は微塵もなく安心して事を託せる氣のするのは流石に百萬長者の旦那様だ。年一年信望を加へて政治家としての手腕、力量も加つて來たからこゝ數年の後には立派に代議士なり貴族院議員なりの名

家として檜舞臺を踏むの時が來るに相違ない。抱負、識見に於ても其根底あり。政治上の實際にも經驗を積んで、貫録も備つて來た。それで當年まだ四十九歳。前途春秋に富んで居るからトメ子賢夫人の内助の功と相俟つて今後の發展は蓋し刮目に値するものがあらう趣味は大弓と圍碁に將棋で、女道樂はない。大學卒業生で前垂がけの帳場つとめ迄した人だけに財布の口は固いと云ふ。

所屬	民政黨(再)
住所	安達郡本宮町
職業	倉庫業
年齢	四十九歳

### 菅野 善右衛門君



菅野善右衛門君は伊達郡福田村の人。先代善右衛門翁も縣會議員から衆議院議員に當選したが、同君も先考の迹を踏んで縣會議員三期、衆議院議員たること三回、本縣政界に押しも押されもせぬエボツクをどどめて居る。同君は豪家に生れ資産數十萬を擁して少壯先づ伊達郡會議員となつた。當時最も年少の議員であつたから最初は同僚も小ペカにしてゐたものだが持つて生れた剛氣は措しげもなく紙幣束を撒いて湯野村稻荷屋旅館を根城として郡政の爲めに万丈の氣を吐いたこのことでこれが爲めに同君は忽ち郡政界の大立者となり同君の力に依つて土木勸業方面に一新生面を開いたことは今も尙美談として傳へられて居る。三十餘歳にして縣會議員となつた當時

宮田知事が縦横の才腕を振るつて縣政上に新計畫を立てたが、しかも同君は飽く迄是を是とし非を非として同志を叫合して所謂五人組を組織して一方の權威を見せたものである。當時の縣會の花形としてうたはれ政友會支部幹事長に擧げられ忽ちにして名を爲した。大正十三年總選舉に出馬して落選。昭和二年田中内閣の時再び立つて當選。爾來再選され今春の總選舉に當選して三期に及んで居る。伊達郡に絶對的勢力を有し一萬票以上の投票が同君の背景にあること

が尤も強味で今日では「手ブラ」で當選出來ると云ふ幸運者で多年の試験から人格も圓熟して如何なることでも泰然として動せず、人に接して寛容温順、極めて平民的で「菅善」と一般から愛稱されてゐる人氣政治家である。然し意志の堅剛なる點は天下一品で闘志が一度閃めけば如何なる難關をも辭せず一本調子で邁進すると云ふ勇氣を持つてゐる。現在福島縣農會常務顧問、伊達郡農會會長、福島公立病院參事會員等の職にあつて地方の爲めにも努力してゐる。農政方面の代議士が少ない今日同君の如き農村出身代議士を議會に存在せしむることは大に意義あること、云はねばならない。

所屬	政友會(再)
住所	伊達郡福田村
職業	農業
年齢	五十三歳

# 栗山 博君

五十四歳の今日まで兎も角、斷乎と獨身主義を貫く從五位栗山博君は安積郡富久山村の生れ、仲西君と同じく安積中學出身で五年程の先輩だ。早大政治経済科に學んだ。間もなく渡米し米國州立加州大學及びロスアンゼルス、ノースカロライナ大、イナ大、學院に學び、マスター、オヴアーツの稱號を得て歸朝した。船が横濱に入るまで日本に歸へつたら何になつて身を立てやうなどと考へなかつたそうであるから幸福な身分だつた。政戦に臨んだ以



來、苦勞を重ねたが大正十年の代議士選舉で見事に當選して以後は同十三年、昭和三年、同五年、同十一年の五回當選してゐる。濱口ライオン首相時代、若槻エ、コトはエ、首相時代に海軍參與官だつた。多忙な生活の中にあつてよく讀書し、「軍縮會議」其他數種の著書がある由。選舉となれば何商賣か分らないやうな候補者がいみぢくも著述業など、おこがましい職業を名乗り出て、選舉民を「はアテ」と首をひねらせるが、栗山君などは著述業で誰れも文句は云はない方だらう。しかも栗山氏は大日本絹毛會社、京都特殊鋼會社の取締役でもある。彼が獨身で通してきたことに就ては色々説を爲す

所屬	民政黨(再)
住所	東京市澁谷區代々木初臺五四六
職業	著述業
年齢	五十四歳

# 堀切 善兵衛君

全日本兄弟出世鑑と云ふのだから堀切家は珍しい。長兄善兵衛君が五十五歳で政友會總務の前衆議院議長なら次弟善次郎君は貴族院議員で前東京市長、前議長、前復興局長官である。末弟で藤吉博士の愛婿になつた内池久五郎君は福島信用組合長である。外に姉君の



一人は白河の丸持長者川瀬家に嫁ぎ其令嬢達が郡山の伊勢萬や本宮の新城家へ輿入して居るし姉君の一人は二本松の山田家に嫁いて令嬢は本宮の伊藤轅君に輿入した。と云ふ家門の繁昌振は地方に並ぶ

者も無い。善兵衛君は飯坂温泉町の舊家で阿部藩の領民だ。先考良平翁は何十萬の巨富を積み乍ら存生中は遂に選舉費一ツ與へず。岳父の吉野氏、義兄の山田氏が一切の大部分を支出した程の頑固者だ其吉野氏の持家に住み浮た噂一ツ立てず嫌な腰一ツ曲げずに今日在るのだから果報者だ。早く慶應義熱大學を卒業して英米獨に留學し財政經濟を研究した。歸朝するや母校の教授となり時事新報記者を兼た。そして卅歳ソコノで代議士に當選し一回の落選も味はずノビクと伸て來た。されば頗る明朝で寸毫も表裏なし。稀有な政治人で利權を漁らず今日に及んで陰翳一ツ無い。雄辯宏辭で今春の議會では第一の聞き物だつたと云はれ既に議長も勤め、岡田内閣の文部大臣を謝絶したのは有名な話だ

が昨今は鈴木總裁引退後の新總裁候補に數へられる。不自由の無い程度な金持だが理由の解らぬモノは一錢も出さぬ英國タイプで子分の議員は一人も持たぬ。支部長を勤めても強て味方を作らうとせぬ。此恬淡振が故高橋是清翁に愛されて高橋翁と形影相伴ひ大藏政務次官を再度まで歴任した。各種委員など數ふる違も無く多いし外遊も再三である。モウ大臣は眼前にブラ下つて居る譯で郷里の老母堂は御樂しみな事だ。廿何貫。五尺六寸の巨軀で柔道三段。また若かりし頃は選舉區の元老伊藤武壽氏を取つて投た武勇談さへあつて國會亂闘時代には一通りならぬ蠻勇を振つたモノだつた。從四位勳二等で當選九回——衆議院何百代議士の間で十二番の古顔だ。

所屬	政友會(再)
住所	東京市牛込區市ヶ谷田町二ノ五
年齢	五十五歳

### 助川啓四郎君

助川啓四郎君は縣會議員當時も異數の議員として縣會に重きを爲してゐたが代議士に當選三回、今日では農政界に於ける一權威として將來を囑目されて居る。現在政



友會本部の政務調査會副會長の地位に在つて致

々として農村問題解決の爲めに研讀を續けてゐる。又農林省經濟更生の常任參與として實際方面にも活躍して居る。君の偉いところは黙々として倦まずに勉強してゐることだ。田端驛前の白梅園と云ふ宿所をたづねると室の中は書生部屋のように参考書が雜然としてゐる。その中で平氣で來客に應對しながら原稿を書いたり調査をした

りしてゐる、素朴な風采で少しも飾るところなく一介の政治書生らしいところを見せてゐるが一度度政治問題に觸るれば、大臣も大將も先輩もないと云ふ独自の立場で堂々と自論を主張するところに同君の生命があり本領があるらしい今では陣笠の域を遙るかに脱して全體的に助川代議士の存在がはつきりとして来たところなどは凡庸なる政治家でないことが證據づけられる、早稻田を出て、三十そこ／＼で自村の田村郡片會根村長に就任し村政刷新に全力を盡し一昨年町制を實施し町長として天下の模範町を期して居る。縣會議員としては當時の香坂知事をして駭かしめたくらゐの地方自治に精通せる頭腦を閉めかして諸般の縣政問題に當面し更に中央に出で、は又今日の活動を爲してゐる。流石に東京朝日新聞が明日の大臣候補者

として推舉して居るのも故ある哉と云はざるを得ない。しかも同君は尙少壯政治家に屬して居る。新時代に新政治の空氣を充分に吸ひ込んで、これを實際に行はんとする、その意氣は大に縣民として買つてやらねばならない。中島知久平を中心とする國政一新會は政治團體として新生面を開拓するに努めてゐるが、この一新會内の牛耳を執つてゐる同君の進路こそ先づ大に期待してよからう。殊に同君は政黨に對する眞面目なる再檢討者であるからこの人等に依つて政黨政治を見直して行く日が來ることとは疑ひないと思ふ。

所屬 政友會  
住所 田村郡船引町  
職業 農業  
年齢 五十歳

### 林平馬君

林君は立志傳中の人だ。明治十六年耶麻郡駒形村に生れた。日本體育會體操學校を終つて日本大學に移つた。が其間も鹽川と喜多方など郷里近くや東京市で小學校の訓導を勤めた。先輩蓮沼門三君の修養園を立脚點にして京城陶器といふ會社の重役だの協週會の参事だのも歴任して來た。引續いて四回當選だが前回は地元の第二區から敬遠されて第一區に移り今回は第一區が問題にならぬので第二區に戻つたら除名された。ソレでも會津以外に縣南を入手してマンマと當選した邊は偉い。此手腕で頼母木遞相を親分とし宇垣一成によし安達謙藏にもよし要領のよい事は無類だ。大國民讀本其他の著書



あり東北振興調査會委員にもなつて勳四等を賜はつて居る。大川筋の疑獄などでは危いと傳えられ乍ら押切つて居る。萬事が其手で彼の利巧さ加減は一切の進退に現はれる。でも令息は政治家に仕たく無いと見えて西白河郡西郷村へ養魚池を作つて歸農させた。處が蛙の子は蛙で早くも今春は選舉違反でヤラレてのけた次第、詮も無い今後の彼がドウなるか。之はチヨツと謎である。最早此上は移る可き選舉區も無いからミツチリと第二區へ食ひ付いて行かねばなるま

い。けれど次回には中野寅吉君の復活あり、ガス疑獄の執行猶豫で踏晦中の鈴木寅彦君もソロ／＼返り花を咲かして掛來る。となること會津は手一杯になるからドウでも縣南に伸ねばならぬ。仲西君との角突合ひとなるとすれば惑星三田君を味方につけた方が勝利にならうか。ウマク舞臺が廻れば林君が豫選會で縣南の公認候補になつてアベコベに仲西君一派が除名されて終ふ事も考へられぬ處で無い。けれど今日、全會津の同志議員から總スカンを食はされて居る點が自己の人格上の缺陷に原因せぬかドウかを三思するの自省がなければ何事も六ツかしい。才智を持つ者は才智に倒れる。口も八丁、手も八丁、御辭儀も上手で人氣の乏しい理由が自得し得るや否や。

所屬 民政黨本部(再)  
住所 東京市目黒區洗足四六四  
職業 著述業  
年齢 五十四歳

# 八田 宗吉君



明治七年十月、河沼郡日橋村八田に生れた。先祖代々、同地方に於る事實上の「殿様」で城廓の如き家居だ。昨年惜しや炎上したけれど復興に際しては舊態を存して新設備を加へた。と云ふ程に由緒あつて豪族だ。先代も先々代も全會津隨一の徳望家で政界過界に著名だつた。此富家に長嗣たり。安積中學を出て志願兵となり日露戦役にも従軍して歩兵大尉に進んだので此頃の同輩は殆ど中將大將になつて居る。歸農して村長に推され郡會議員に推され縣會議員に推され各々參事會員となつた。支部幹

事長を勤め支部長を勤むるもの十餘年であらう。座臥往來に郷里を忘れず農村の代辯者を以て任じて居る。故に政界に於ては大正六年以來當選七回の代議士を始め現に帝國農會副會頭、馬政調査會委員たり、外に米穀委員會委員、米穀統制委員會委員、米穀對策委員會委員も勤めて來た。陸軍參與官として次官級で正五位勳三等を辱けなふして居た。其多忙の閑を以て會津電力及び福島農銀の取締役となり會津育英會の理事となつて郷黨の爲めに努力して居る。外遊もすれば經驗もして議會に於る實際家たること比肩す可き人は稀れた。多年地方及び國家の事に盡して傳來の資産は多少の減少こそあらうけれど一門一族みな中央の高位大官貴紳と婚姻を結んで家運は年々に隆昌である縣内に民選知事が出来れば第一候補は此人と云

ふ程に敵味方とも心服するのは彼の終始一誠意。苟しくも私心なき活歴史故でなければならぬ。日橋村は昔も今も一票も反對派には入らぬ結束で八田家は生神様のやうなモノだ。之を長嗣の武君が守つて寸毫の搖ぎも見せぬ村長振だから安心して國務に携さはり得る幸福は議會に人多きも類の無い唯一人であらう。比佐君は一生涯の代議士だが八田君は子孫まで八田家存する限り代議士であると思つて良。斯のやうな家柄と人物が他に有る可き筈は無い。偏に累代の遺徳であり當主及び令嗣の盛徳である。財は數百萬。それで東京鐵道ホテル生活廿年だ。此武士的な勤儉質素が光るのである。

所屬 政友會 (再)  
住 所 東京鐵道ホテル  
職 業 農 業  
年 齡 六十三歲

# 湊 季 松君

故河野磐洲翁の墳墓の地たる三春町に生れ、磐洲翁の遺鉢を繼げる故菅村太事代議士亡き後の田村民政黨に於ける第一人者である。郡制時代首席郡書記を勤め、郡制廢止後三春町長に推舉され今日迄三期間勤續して居る。田村郡町村長支會長、郡農會長、郡養蠶實行組合長、三春町外十三ヶ村煙草耕作組合聯合會長其他各團長等の要職の外縣會議員には二期當選して



る。本年二月の總選舉に准されて出馬し危げもなく當選したのは蓋し君が多年地方の爲めに努力貢獻した功勞に對する自然の報酬である。田村全郡の信望を一身に集め民政部會長として田村郡同志の結束統制に微動だも起さず、重大な任務を遂行して來た君に對して反對派からは豪岸、不遜、頑強な黨派に固まつて居るやうに見られて居るが實際の性質は極めて卒直恬淡、竹を割つたやうな潤達な快男子で剛邁、果斷でもあるが極めて人情味に深く、義理堅い處も豊富にある一個の人間湊は極めて廉潔な面も溫情に富んで表裏のない明朗な性格である。當選後再び同町長の職を引受けてゐるが、地方

自治の振興、刷新に努力する事が君の念願でもあり、またそれが君の天職でもある様に思はれる。東北農村の振興を期してゐる君の活躍は吾等の期待するところであるが最近君が福島縣會に顔を見せた際新聞記者に語つた言葉にも「私はこの傍聽席に居てもやはり前同様縣會議員の議席に在る様な氣待である」この一つの言葉の中にも君の眞面目さを躍如たらしめてゐる。雄辯家といふ程ではないが國會の檯舞臺に至つた君に地方民は期待刮目してゐる。

所屬 民政黨(新)  
住 所 田村郡三春町  
職 業 農 業  
年 齡 六十一歲

### 仲西三良君

肅選の波に乗った。タケタイした大金も使はず一度でアツサリ新議院に列した。従七位仲西君は果報者だ。地體が「運」のよい人で茲へ来る迄もトン／＼拍子で苦勞は何一ツ仕なかつたと云ふてよい。明治廿三年に岩瀬郡鏡石の舊家瀧田家に生れた。實兄に在京の辯護士法學士塚田貫一氏あり。實弟に在福の醫學博士星多門氏あり。其他の一門みな繁昌だ。安積中學から東京帝大に入り檢事として東京と前橋と札幌に居て来た。矢吹町の仲西本家へ花婿サンになつて来た美男子で養母の意向もあつて歸農したのが大正十三年だつたから世間の六ツかしさも殆ど知らぬ所に彼の長所も短所もあつて酒を呑めば物凄いとらになる。昭和の初頭に大木代吉君が頭取の矢吹銀行副頭取となつたが間も無く昭和五年に今度は大木君が助役の町役場へ



町長に就任したから面白い。そして大木君が縣會議員となり政友會の郡部會長となると彼は民政黨から代議士になつた。此邊は運命的な興味で無いか。そして町長を勤

め乍ら信用組合や病院組合の世話もすれば縣農會議員や郡農會長もする。代議士としては最も精勵な一人だ。最近の東北振興豫算問題などでも他の先輩が敬遠する縣議團の集會へもコッ／＼と出て行く。政治が面白くて堪らぬ故もあらうが人間の眞面目さが第一の取柄だらう。矢吹ヶ原の利用をドウするか。之が本縣政界の一懸案である

今日としては適材を適所に得たモノと見やう。唯、問題は今後である。則ち彼が華やかな代議士稼業を一回コツキリで打切る質實味があるか無いか。無ければ何と云つても且那樣で儲け口は知らぬ人だから結局スツカラカンになる覺悟が入用だ。又た引續いてヤルとするには選舉地盤にも惱みが出る。と云ふのは縣南三郡の豫選會で仲西君のパスする可能性が乏しい事だ。前回は内藤六三郎君の立候補辭退で骨を折らす、實戦に入つては三田暉次君が令弟の喪中と云ふ名義で引籠り乍ら東白川郡から三千何百票を送る。と云ふ始末なので助かつたが次回は三田君が凄腕を揮ふ。となると素より林派の佐藤矢内兩縣議は合流が明白だし川田縣議は洞ヶ峠に登つて大越縣議だけ残ると云ふ事にならうかと觀測されても居るのだがドウか。

住所 民政黨(新)  
西白河郡矢吹町  
職業 農業  
年齢 四十七歳

### 比佐昌平君

栗山君の獨身生活はチラ／＼飽聞が無きにしも非ず。些か眉唾の點を見るけれど比佐君に至つては正真正明、マツタウな獨身生活で今は昔の早大政經科學生當時に下宿して居た牛込區新小川町の長生館と云ふ家に現在も居る。三十何年間、同じ下宿に居て辛書生時代から當選五回、代議士で陸軍參與官で正五位勳四等の金ピカ姿になつた今日まで變らぬ處に比佐君の人格がある。大學時代から雄辯會を牛耳つて全國に獅子吼した演舌で代議士を志した頃は三度まで敗れた。が一度「取つた」となると炭礦地の選舉民に「彼は神様だ」と目されて次々に五回まで破竹の勢になつたのだから面白い。直情徑行な質で掛引も所謂ハタラクキも飾り氣も無い點がドンと選舉區の氣に入つて居るのだ。されば燕尾服でも大禮服でも苟くも入用の物は郷



里の者が喜んで據金して作つて呉る。だから一般の代議士の如く會社にも銀行にも事業にも近づかぬまた近づけぬ建前なのだ。政治一本槍で死ぬ迄行くのだ。先輩の製藥王屋一氏と一騎打の時さへ「クスリはホシ。政治は比佐」の標語で大勝して居る。實家の石城郡湯本町には古い小さい家に老母堂と令妹が住む。栗山君と同年の生れで比佐君が半歳ばかり早いのだが性格は極端から極端だ。栗山君が丸持長者の八田君と並んで東京鐵道ホテルに居る頃も今も同じ安下宿屋の二階暮しだ。日本廣しと雖

も三十何年間を一ツ下宿屋に泊り通して恐らくは無縁の其家で死ぬであらう者が幾人あらうぞ。此意味で清貧に甘んじつゝ、邦家を憂ひ人類を憂ふる比佐君は眞の「國士」と云ひ得やう。彼は完全な「政治業」で他の何物にも關係して居ない。此頃出身地湯本町の堀湯問題で町民の一部に反感あり。些か政情の舊に似ぬモノがある等の宣傳もあるが事實はドウして／＼確乎不拔な地盤である。全議會人で此空財布を以てして之程の地盤を有する者は殆ど無いと思ふ。炭礦地と云ふ好條件に天恵はあるものゝ、本人の一種云ふ可らざる美點が反映して居ると申す外は無。一生を通じて當選確實の士であらう。

所属 民政黨(再)  
住所 東京市牛込區新小川町  
長生館  
年齢 五十三歳

# 氏家 清君

卑脚——ではないが、足の悪い代議士氏家清君は此の點死んだ大隈重信侯に似てゐるのである。ある。そう云へばあの大きな口をへんの字にぐつと結んだところも似て居るぢやないか。双葉郡津島村に生れ、學歷は無いが廿三歳の頃は福島産馬會社三春支社の理事で當年の一壯士菅村某などには盛に小使ひ錢を與へたものだが夫が後年の代議士菅村となり代議士氏家



となつた。日露戦争後に縣會議員たること二期。喜多方中學の瀆職事件で一時失脚したが復た浮び出した。押の強さで政黨華やかなりし頃の民政黨支部幹事長をやつた。昭和五年の總選舉に逐鹿場裡を馳驅して見事當選したが七年の政戦には一敗地に塗れた。後年、移川水力電氣會社長、福島民友新聞社々長となるに及んで、政界と一寸遠ざかつてゐたが今春返り咲で代議士になつた。危険を傳えられ乍ら「政戦五十年」の経歴にモノを云はせた。山林問題や東北問題では全國的の權威で本年の夏、福島縣山林會が田島町で開かれた時出席し其の夜梅壽館での町長招待宴席上では、尾瀬沼と發電所計劃に就

て一席辯じ立て「私は足が悪いが皆様のお供をして尾瀬まで行かないのが残念である。どうぞ明日は天下の景観としての尾瀬を見物すると共に發電所計劃地としての尾瀬沼を観察して下さい」と結んで居る。氏家代議士には高山植物水芭蕉も、長葉のもうせん苔もない、國立公園の沼澤を發電所とすることに多々の關心を有してゐるところに、氏の事業慾があるのも興味のある點だ。そして田島から引返へすと云つてゐたのに、遂に南會の奥地檜枝岐村まで一同同行したのだから七十歳を越してゐるとは思へぬ元氣で、次回も重選必定であらう。演劇が趣味で文筆の才あり。隠し藝は濫い小唄

所屬	民政黨(元)
住所	福島市
職業	農業
年齢	七十歳

# 鈴木 辰三郎君

今春の總選舉で農村を廻つて「米は一升五錢にするのが相當だ」と力説高調して農村民に大歡迎を受けたのは恐らく鈴木代議士以外にはなからう、大抵は農村の氣に入るやうに米價問題は一石三十圓以上が相當だと演説して居るのにこれとアベコベの政見で進んだのは不思議と云へば不思議だが、しかし茲に同君の眞骨頂があると云はねばならない。同君は石城郡夏



井村の農家に生れ少壯時代は農人生活を衆と共に營み、農村の實際に眞に觸れてゐるだけに米が一升五錢でもこれに伴ふ政策が實現すれば農民の福利は充分増進さると云ふ體験論なので何れも首肯したのである。所謂第三區濱通りの今春の逐鹿戦は非常に混戦地帯であつた。殊に政友派では松本孫右衛門、星一の元老が飛び出し、鈴木君は石城の木村清治、佐藤庄太郎、井上茂作などと云ふ

元老連から反撃され非常に苦戦を續けたものであるが、單身、馬を陣頭に進め僅かに現縣議連沼龍輔君を參謀にしただけで中央からも一人の應援も求めず、地廻りだけでやつてのけたのは君の雄辯の力もあらうが、平素地方に培つてゐる努力の効

果が躍然として湧き起つたものと云つてよからう。君の卒直などころ。剛毅なところ野人らしく見せて何處となく品位のある態度は全く石城郡民多數憧憬の目標となつてゐる。殊に青年の氣受が頗る好いのは矢張り新時代の新政治を理解しこれを自己の實行要目としてゐる結果にもよるのである。縣會議員三期、縣政上にも大なる功績を残してゐることは衆目の見るところだが、政友會本縣支部幹事長時代には硬骨振りを發揮して大に同志の爲めに氣を吐いたことも今でも尙傳へられてゐることだ。大した先輩も親分も持たず、獨力で邁進して行く勇敢な態度はこの人獨自の本領で、中央でも一寸不思議にされてゐるが、一種の怪腕を有することは何人も承認してよからう。

所屬	政友會
住所	石城郡夏井村
職業	農業
年齢	六十歳

# 金成通君

金成通君は貴族院の研究會に屬する多額納税議員である。大抵これまで鈴木周三郎君にしても吉野周太郎君にしても又根本祐太郎君にしても多額議員の本領として終始沈黙を押し所謂金持ちらしいところを見せてゐたものだが同君が議席を有するや、先輩格の宮田光雄君等と相伍して遜色ない活動振りを見せ矢鱈に儀式張つてゐる華族連中を程よくあしらつて勅選連を平氣で尻目にかけてゐるところは流石に見上げたものと云ふべきだ。昨年の議會で東北振興問題を携げて廣田首相に肉迫し、その言質を取つたことは有名な話だが、東北振興に對しても一家言を持して堂々と争ふところは本縣の爲めに意を強うする。元來が實業



烟の人だけに細心緻密でしかも放膽無比、懸引も垢ぬけのしたところを見させてゐるので、田舎政治家の域を脱してゐる。貴族院には本縣が生んだ勅選堀切善次郎君もゐるが、堀切君の評は既に天下の知るところだが、金成君の進んで行くところは相當に堀切君をアツと云はせて居るところがあるのだから愉快だ。未だ任期は半ばであるからこれからこの人が何をやら

同君は縣會議員として二期、それもズットと昔前のこと。重厚の資堅剛の質しかも剃刀の如き切れ味を持つ手腕力量は早く既に本縣の政界實業界、事業界に重きを爲して來てゐる。現在、植田電氣株式會社々長、昭和人絹株式會社重役を始め銀行會社の重役たること十指に餘りあり。傍ら攻友會本縣支部の總務として政黨積年の弊套を一掃して明朗化するに努めてゐる。今度の縣廳舎改築案などに對する政友會の指導精神は此の人から流れ出たと噂されてゐる。實業も事業も政治も何れも眞摯に誠實に邁進することがこの人のモットーである。殊に後進の爲めに努めて懇切丁寧指導の任に當つてゐるので畏服者も多いと云はれてゐる。

所屬	政友會
職業	會社重役
住所	石城郡錦村
年齢	五十八歳

# 油井德藏君

油井德藏君は明治三年八月に生れて當年六十七才である。現在君の財界と政界に於る地位は貴族院議員の外立憲民政黨顧問、福島縣節絹同業組合長、福島商工會議所會頭、第二福島羽三重株式會社、川俣銀行の重役等々、全く押しも押されもしない實力を持つてゐる「人間は低い所から出發しなければ駄目だ殊に人を使ふものは自分の仕事に關する一切の事情を心得てゐなければいけない。商人になるなら小僧から、工業家になるなら職工生活から體驗せよ」とは君が部下の人に語つた言葉だ



君は凡俗實業家とは異つた一種の強い信念の持主で一度しつかりした計畫が樹てば傍目をふらす直往邁進する。その反面に又頭の低い好々爺ぶりを發揮してすべての人に好感を持たれることは君が商人出であるがためばかりではない

君は凡俗實業家とは異つた一種の強い信念の持主で一度しつかりした計畫が樹てば傍目をふらす直往邁進する。その反面に又頭の低い好々爺ぶりを發揮してすべての人に好感を持たれることは君が商人出であるがためばかりではない。福島に於ける蠶糸商店の子息と生まれながら。當時伊達郡保原町の豪商福井商店に小僧として住込み雑巾もかける、配達もするといふ風な間に勉強して成年になつたがその間に同家の嚴格な薰陶と人格的感化を受けたこれが後年の人間油井を造り上げる上に大きな寄與をしてゐる君が今日に至るも毎年舊主家をたづねることは地方での美談として語られてゐる。それか

ら書き落せないのは去る昭和八年に長逝された令姉油井ナカ刀自のことで君の今日あるは刀自の感化の賜だとも云はれてゐる。刀自に就ての逸話は數多いものがある。君は本年の通常縣會を満場一致で通過した福島縣廳改築問題では何時も先頭に立つて全市會議員、商工會議所議員と共に大童の活動を續けたことには全市民と共に敬意を表するものである。記者は福島に於て最も底力のある傑物は誰か——と問はれたら些の躊躇もなしに油井德藏君を挙げたい。

所屬	民政黨
住所	福島市大町
職業	會社重役
年齢	六十七歳

編輯後記

◇原孝吉君の辭職後繰上げ當選となつた郡山市選出星勇君は目下奇禍にて本縣會も缺席中で同君だけは除くことにした諒讀者。

◇本書掲載の議員各位の年齢は昭和十一年に於ける年齢である。これは本書を十二月に發行したためである。本書は毎年改訂を加へて發行する。大方の御愛讀を願ふものである。

◇昨年發行した「縣議の横顔」は東北六縣大都市所在の圖書館に寄贈したが朝鮮開城圖書館。岐阜縣大垣市圖書館等の他寄贈申込が多數あつたので贈呈した。

◇本書も圖書館の他公共団体等には贈呈するから御申込を乞ふ。

◇尙本書に關し御氣付の點を小生宛御注意願へれば幸甚。(一一、一五)

福島市、會根田天神前  
太田 三樹

昭和十一年十二月十七日 印刷  
昭和十一年十二月貳拾日 發行

【定價 金參拾錢】

編者 福島市會根田、天神前十八番地  
兼發行者 太田 源次郎  
印刷者 福島市大町二十八番地 木村 玉次郎  
印刷所 福島市大町二十八番地 木村 印刷所

福島市會根田、天神前十八番地

發行所 帝都日日新聞福島支局

大賣所  
同 福島市福ビル 博向堂書店  
同 大町 西澤書店  
同 大町 古今堂書店

高級料理 仙壽亭

電話三五五番  
六五八番

中央亭

福島市中央公園前  
電話六四三番

三業組合福島見番

電話六三四番

松葉館辨當部

電話四九一番

構内食堂

福島驛前  
電話五三九番



国立国会図書館

西屋旅館

福島市大町

電話二四番

福島ホテル

福島市榮町  
電話八九〇番

PATENTED NO. 119016  
 CAT. NO. 854  
 "F - M"  
**PAMPHLET BINDERS**  
 are carried in stock in the following sizes

Catalog No.	High	Wide	Thick
851 (菊倍)	30. cm.	x 22.5 cm.	x 1 cm.
852 (四六倍)	26. "	x 18.5 "	x 1 "
853 (菊)	22.5 "	x 15. "	x 1 "
854 (四六)	18.5 "	x 12.5 "	x 1 "
855 (特)	24. "	x 15. "	x 1 "

Special sizes are made to order  
*Library Supplies in All Kinds*  
**F. MAMIYA & CO**  
 OSAKA-TOKYO-FUKUOKA

Blank white label on the left edge of the paper.